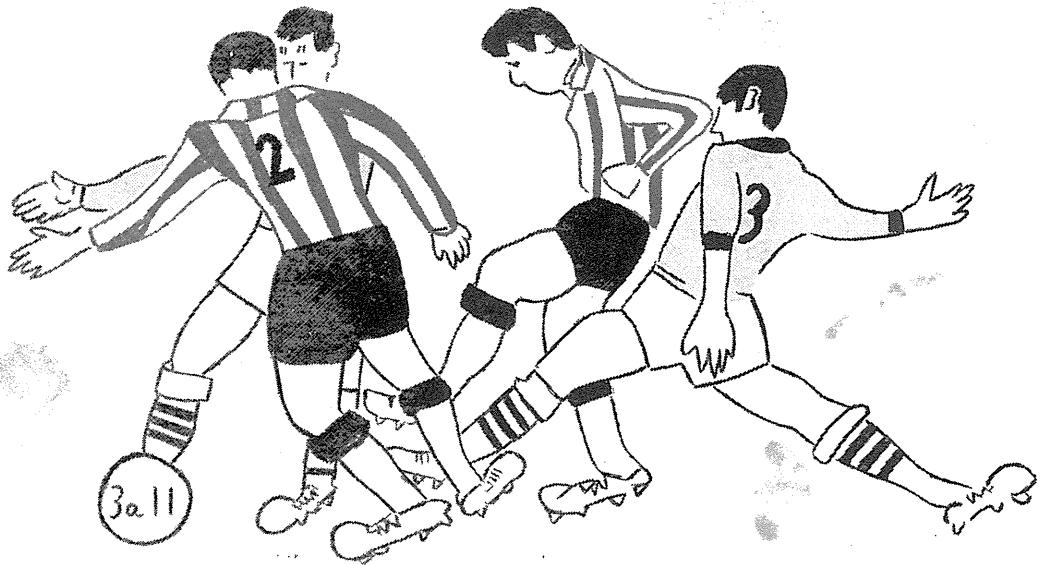


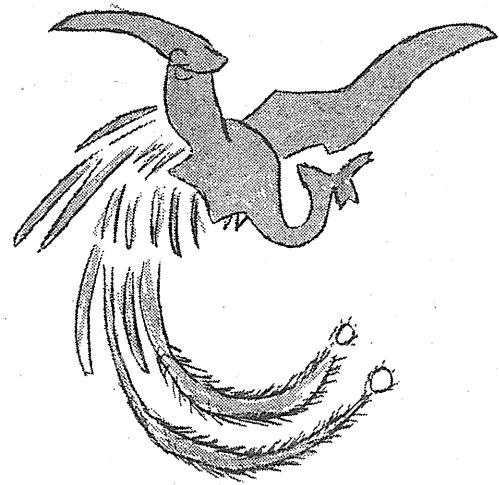
IDANH



6

栄光学園蹴球部

DASH



No. VI

フェニックス

われは堅き金剛石

金槌にも鑿にも

打ち碎かれじ

打ち、打て、打ちみよ

われは死なじ

死してはまた生き

屍^ハ灰^ハより生るる

不死鳥のわれ

殺せ、殺せ、殺せみよ

われは死なじ

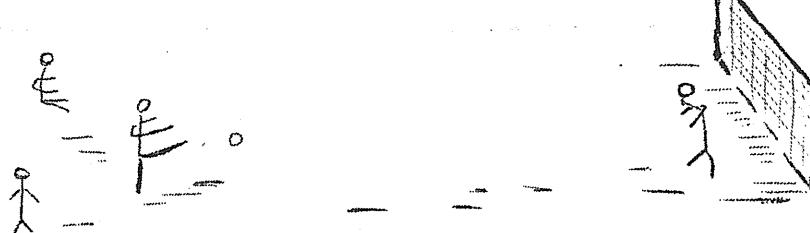
—バイ—フー

Eiko Soccer

INDEX

新しい使命	四期生	泉頭 篤二	3
栄光サッカークラスの発足に際し	六期生	栗原 正喜	6
雑草を食った話			8
関東大会神奈川県予選			
地区別予選挙西Aブロックリーグ戦			9
県予選トーナメント			12
▶合宿			15
合宿日誌より			16
合宿コボレ話			25
合宿在終って	九期生(主将)石原 博	26	
GOSSIP			28
国体県予選在終って	九期生 内山 正樹	34	
蹴球部員に対する質問			
「何故俺達はサッカーをやるか!」	九期生 田畠 哲也	36	
▶作文			
岩淵さん	十期生	市村 俊一	41
サッカーと僕とサッカーチーム	十二期生	佐藤 孜	42
坊主雑感	十期生	中前 峻	44
ぼくのスポーツ歴	部長 東郷 寛	45	
オレはG隊に襲れた			47
県下中学校選手権大会	十一期生	北村 富治	48
中学練習試合			50
舞えフェニックス	中四の部員に=副主将 田畠 哲也	54	
蹴球部展を顧て			57
他校紹介	一県立横浜緑ヶ丘高校一九期生(仲)吉田 正博	60	
丹沢山小屋合宿日誌			62
山小屋生活より			73
編集後記			74

=表紙= 九期生 林 吉 永



新しい使命

サッカーブ展を見て

四期生 泉頭篤一

創立記念祭のサッカーブ展は申分のない立派なものだった。一手の手に中学の指導を、他方の手に高校の地区予選を持ちながらも、尚あれ程の仕事を仕上げたという事は、サッカーブの不斷の発展もさる事ながら、現在の部が何如に意気に溢れ、余裕を持ち、組織の力を持つていてるかを如実に示している。色々な屈曲を経ながらも、サッカーブが不斷の進歩を遂げている事に喜びを感じるし、我々の時代には思いもつかなかつた事を為し遂げてくれた努力に敬意を表する。僕のあの試みに対する評価は、サッカーブが、自らの使命を遂げようとする入口にまで差しかかつたという事に他ならない。

第一にあの展覧会が栄光の新しい出発である創立

記念日に於ける行事の一環として参加という形をとつた事、オニに内容には多少自己陶酔的なきらいはあつたけれど又、この点がまた「入口」であるというやうんであるのだが、全体としてサッカーブの全貌や真髓をよく表現し、栄光生に何物かを訴える多くの暗示を含んでいた事、オニには、部員の全力がそそがれた力作である事、等をみると、単なる宣伝以上のものである事は明らかであり、後に云う「拡大された自主性」の最初のあらわれであるとみて差支えない。

従来サッカーブに限つて考へても、部の栄光内での活躍・積極性という点からも、又部の実績という点からも、多數ある部の中では一級のものであると信じて疑はない。毎年コンスタントに数々の成果をあげ、部の運営も、指導も重大な失敗もなく過してきている。確かにこのような点からみる時、サッカーブは、自主的に積極的に部生活を送ってきたと云える。しかし、こゝに言う自主と

か積極性は、満点をつけてもおかしくない内容を含んでいただろうか。僕はこゝに限界を感じざるを得なかつたのである。限界といふのは、サッカー部の発展、試合に勝つ、指導を充実させて将来の部をも保証する、という事にとどまり、部をとりまく栄光生に対する責任も顧慮もしない自主、積極性でしかなかつたという事である。サッカー部の全国大会出場といつた事が、はたして栄光生、或はもう少し峠く考へて、他の部に良い影響を与えただらうか。週二回の練習というハンドバイキヤップー(一)の事はすでに「歴史の重なる毎に、ハンディキヤップの意味が薄れて来てゐる。望ましい傾向である。(一)があつても、決して県水準の上位にランク出る事はない」という刺激を強く与えだらうか。確かに暗示的には他の部に、栄光生に影響したと思う。しかし、そういう面からの佑きかけはやはり消極的な訴え方ではない。しかし現在一栄光の各部は、一つの部の盛衰が、喜びと苦しみが、他の部に連鎖反応を起す程、密接な関連をもつてゐるとは云えぬのでは

なかろうか。僕のスポーツ部の横の関係を強くするべきだという考え方は、このような所からくる。つまり部の分散的な性格に気がつくからに他ならぬ。サッカー部の部員は、高校生のみでなく中学生でも「私達のサッカー部、部の主人公は自分達だ」と思っているに違いない。つまり、部を良くするのも悪くするのも、勝利の栄誉を勝ち取るものも敗北の屈辱に甘んずるのも、他ならぬ自分達部員であつて、先生でもなければ先輩でもない事を認識しているに違いない。そうでなければ、過去のあの成績は一体どうやって説明する事が出来ようか。しかし、サッカーという衣を脱ぐと、索々外、今迄持つっていた主体性を脱いでしまう。栄光生という事になると、とたんに自分達が栄光の主人公創造主である事を忘れてしまう……。サッカー部の主人公ではあり得ても。サッカー部に抱いていたあの殊勝なる認識を、栄光という社会に対して持ち得ないのである。前に述べた自主性の限界がこゝに現われてくる。

では「拡大した自主性」を、サッカー部として

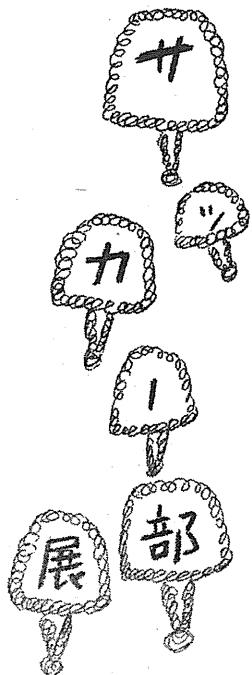
又部員として具体化するにはどうしたらいいのだろうか。試合に勝つ事による栄光生への働きかけ、それも良いだろう。しかしあく消極的なやり方ではあるまい。

積極的な方策はどういうものだろうか。サッカー部の部生活のありのまゝの姿を、栄光全生徒に向つて投げかける事はまさに適確な方向である。そこから拡大された自主性が發揮される。今迄の閉ざされた部の活力、情熱が惜しみなく発散される。所で、このような「拡大された自主性」に醒め、且つ実際行動に踏み込む事の出来るタルースは、栄光中ではサッカー部が最適な位置にあるのではなかろうか。あるサッカー部の卒業生が送別会の言い残しとして、「沈滞した栄光にサッカー部から新風を吹き込んでもらいたい」と言つたが、彼はその事を意識していたのである。今迄、決して衰える事なく、不斷の発展を遂げたサッカー部である。この伝統的にピチピチした自主性、主体性に醒めた部が、栄光に対して拡大された自主性を持つてしかるべきだ。こうした使命感に燃えても

、はずかしくも優越でもないとと思う。—もしサッカー部の魂が黄金であるならば……。

さてサッカー部展の試みは、こうした使命感の入口に立つたと僕は見る。そこにある試みの意義があり、その意義を僕は高く評価するのである。あの試みが、部員獲得の宣伝だけだったとしたら、あそこに費された努力は後の二連敗を契したサッカー部にとっては、あまりにも高価な犠牲になつてしまふ。

あの展覧会を機会に、サッカー部が「拡大された主体性」に醒めた栄光創立の主人公の一タルースとして、サッカー展で到達した入口から、もつと堂々と断固とした足を踏み入てほしい。



栄光サッカーグラフ

の発足に際し…

会長一六期生

栗原正喜

私達栄光
サッカーチーム
のOBも、
総勢四十人
の多くに達
し、ようやく現役とOBとの連絡
機関が必要となるに到
りました。そこで私は
達はその会
の発足に必
要な事項を
、去る五月
十日、鎌倉
や」で二十
人という約

半数のOBの方々の御出席のもとに決定したわけです。現役諸君及び出席不可能であった先輩諸氏に、その時の様子を簡単にお知らせ致します。

現在OBで最も多くの人を持つのは早稲田大学であるため、早稲田大学の人々が中心となつてこのOB会の開催日時等を相談し、初回はその会の目的、役員の人選等の基本事項の決定を行い、次の諸次項が決りました。しかしこれも初回の会合であり、あくまで訂正の必要な事項のみですから、今後も種々の御意見を伺いたいと思いまの「あらめす。

一、会の名称

栄光サッカーグラフ

一、主旨及び活動

OB相互の親睦を計り、又現役との密接な関係を保ちつつ、融通性のある会として発展を期す。

年に一回の総会をもつ。

現役に技術面をはじめいろいろ援助を計る。

県の体協にクラブとして登録する。
対外試合として各校OBとの試合を行ふ。

一、第一期役員

会長 栗原正喜

副会長 石原 薫

会計 奥田斐規

庶務 岩田浩一

年額 学生 百円

社会人 二百円

今後どのような形で指導、その他にたゞさわるか、又、栄光という学校の特殊性とOBという存在とを、どのようにして合致させていくか、等まだ決定出来ない多くの諸問題を残しています。ですからこの会の充実のために、これで一安心といった気持は許されないのであり、これからもどしどし皆さんの意見を提供下さるようお願い致します。私達は今後も我等が部の発展のため大いに努力するつもりでおりますから、現役諸君も、いつも自分達自身の部に対する責任感を忘れずにいて下さい。

では、具体的に先輩諸兄が現役

諸君に望んでいることを、私個人の聞いた範囲内でお知らせしましよう。先輩達がまず第一に希望でいることは、自分達が立派に部の発展の一歩階を通つて来たという自負と誇りがあるため、現役諸君がそれに負けない位の真面目さをもつて、私達が、ながりを両者にもたらせたいと思つ「あれが俺のいた部だ」といえます。

るような姿でいてもらいたいと、具体的に一番良い方法は、個人的に云えば強くなつて欲しいということです。簡単に云えば強くなつて欲しいということです。又、先輩としての喜びは、現役諸君が色々と注文をつけて私達に頼んでくれることであります。現役からは先輩諸兄に心から援助を望んでいることと思いますが、こういう点、他の学校と比較して決して優れています。今は、少しの時間も勉強に使わねばならないと云う誤った考え方を持ちがちですが、もつとはつきりと自分の時間の使い方について考えるべきだと思います。その点現在の

高二の九期生の詠君はよくまとまつて先輩の家を訪れるようですが、大変いいことであり、今後もどう続けてもらいたいと思います。これはお互の理解の上にも、喜びの上にも、最も大切なことですから、私達ももうと気やすく尋ねてもらえるように努力するつもりでいます。

なんといつてもまだ／＼歴史の浅いことである故、これからみぶさんの協力によつてはどのようにでもなると想ひます。そして今がその最も大切な時期でありますから、大いに協力して立派な姿に仕上げたいと思っておりますので、どうぞ御協力下さい。

もうすぐインター・ハイスクールの予選も始まります。もう一度西宮の土を踏むよう、今度こそ又先輩も現役も一致協力してその実現に努めよう。私達の栄光サッカー

クラスの諸兄も、協力援助を惜まないつもりでありますから、現役諸君も私達の期待に反さないよう最大限の努力をして、あの感激を呼びもどして下さい。

「〇B会発足に際して」とはちよつとずれたようですが、とにかく恥しくないような会になるよう努力するつもりですから、皆さんもどうぞ御協力下さるようお願ひ致します。

||完||

七期生
五期生
三期生
四期生
六期生

十名
十二名
四十名

栄光サッカーラグビ内訳

二期生

一名

三期生

六名

四期生

七名

五期生

五名

七期生

十名

雑草を食つた話

ある日の放課後、一緒に帰った中三のT・K・Mの三人がバレーコートの横を通りかかった。するとKはT・M兩人に力モジタサとか云う麦の様な草を取つて、「これ舌の上のつけて舌を動かしてみな」とやつた。がつつきの丁さつそく言われた通りやつて舌を動かして見た。アーラ不思議、この草がどんどん奥へ入つていつてしまふ。「アーテ出でこねー」「ゲーガーゴホンゴホン」「しようがねーのんじやえ」

その翌日TはさつそくEに実験。Eも引つかかって飲みそうになつたが、顔を真赤にして、ゲーゲーやつたり、指を突っ込んだりして出してしまつた。

関東大会神奈川県予選

地区別予選 挙西Aブロックリーグ戦

県予選トーナメント

地区別予選挙

西Aブロックリーグ戦

▽第一戦 対茅ヶ崎高

五月三日(於県営B)

栄光 5 [2-1-0] 3-0 茅ヶ崎

新メンバーを組んでの初試合だった。珍しく良い天気で風もなく最上とも思われるようなコンディションだった。

例の如くトスに負け栄光のキックオフで十一時半試合開始。十分間位は両軍押ししつ押されつのゲームを展開したが、次第に栄光のペースとなり、十五分市村敵ゴリム前でボーリルをキリア茅ヶ崎バック陣が集まる所を太鼓に絆姫のバスを送り、直接ショットを決め一点先取。その後前半終了まで押しして

押して押しもくつたが、混戦から「W菅沢が決めた一点だけに止り2-1で前半を終る。

後半開始直後中盤でボトルを取り、佐藤に縦パスが渡り、ドリブルでバックを抜いて右隈に絶好のショートを決めて一点追加。二の後しばらぐの間中盤ががら空きとなり攻め立てられたが、茅ヶ崎の拙攻に救われる。そして逆に逆襲から山田突破んで決め、更に右コトナリキックを松田がヘッドで決め、後半三点計五点入れ栄光の完勝に終る。

▽第二戦 対吉田島農林高

五月九日(於県営B)

栄光 4 [2-1-0] 2 吉田島

握手の吉田島農林高去年の勝利

大会予選で目前にいながく敗れ、
を喰つた相手だけに、小雨降る悪
条件にもかゝわらず全員のファイ
トは凄じかつた。

例の通り栄光のキックオフで始
まり、五分もたたないうちに大泉

の中距離シュートを吉高のバック

がヘッドイングで味方ゴールへ入

てしまう。この後もずっと栄光の
ペースで進み、三十分山田からの
バスを市村突つ込んで決め2-0

とする。

後半に入り十分経過した頃、敵
のエースである「工」にドリブルで
持込まれ、GKがフリ出されてシ
ュートを決められ初の失点を許す。
しかし栄光は余裕を持って試合を
進め、すぐ後菅沢がシュートを決
める。更に二十分佐藤(鬼)が右から
ひねりGKの逆をついてゴールな

り、4-0となつた。終了間際又
もやし工に持込まれ、足場が悪い
為GK飛び事が出来ず二点目を入
れられたがこのまゝ押し切り、4
-2で栄光の勝となる。

▽第三戦対藤嶺学園藤沢高

五月二十三日(於県営A)

栄光 4 [2-0] ○ 藤嶺

終了。

今日は先週に続いてドシャ降り
の雨。この頃土曜と云うと不思議
と雨が降る。ところで今日の相手
は藤嶺で新人戦に抽選表を喰つた
相手だったが、結果は敵のシュー
ト一本と云う全くのワンサイドゲ
ームだった。

キックオフ後ちょっと押された
が直ぐに攻勢に転じ、十分市村の
センターリングをしW菅沢がヘッ

ドで決めまずリード。続いて十五
分菅沢一山田一佐藤(鬼)とパスが通
って佐藤シュート。見事に決つて
2-0とする。この後前半終了ま
で両ワインタとR山石原の活躍で
よく攻めたが得点に至らず、一方
藤嶺の攻撃もバックスがつかり守
ってペナルティーエリック内に入れ
させず、小康を保つたまゝ前半を
終了。

後半に入つても栄光の優勢は変
らず、一層激しくなつた雨など物
上もせず完全にファイト勝してい
た。藤嶺も時折反撃してくるがバ
ックのコンビと田畠、内山の素晴らしいタシシュにより中盤でとめて
しまい攻めさせない。一方栄光の
攻撃も敵バックに阻まれていながら
十五分ゴール混戦から佐藤(鬼)が
へ出てGKの足元を抜き一点追加左
更にこの後佐藤(鬼)がバックを

抜いてゴールにせまる所、マークしようとした敵バックのチャージでペナルティーを取り、大泉右隈に決めて四点目を挙げる。この後藤嶺も奮しだしエキサイトしたがペースをくずさずそのまま押し切り、栄光の快勝に終つた。

▽第四戦 対湘南高校

五月三十日(於県営A)

栄光 2
2-1-0
1 湘南

このリーグ戦で一番苦戦した試合だった。苦戦の原因は前半ファイト負した事だ。

最初からファイトに圧倒され攻めたてられる。湘南はCFを軸としてさかんに攻めてくるが、CH田畠の好守と敵ショートの不正確で辛くも失点を許さない。栄光は

タッショで負けてしまうので中盤の球が取れず、攻めるきつかけも作れない有様。十五分湘南はインナーからCFに球が渡り、田畠懸命にアタックするも及ばず右へ出てシューートされ一点を許す。この後も相変わらず攻められ続けで二十分にはハンドからPKを取られてしまつたが、GKに林の好守に救われ、0-1で前半を終る。

後半に入つて五分間は前半同様押されたが、RH石原の出場に元気を出しやつとの事で主導権を握つた。そしてあせりの出た湘南を圧倒し再びゴールに迫つたがもう一步の突込みが足りずなかなか得点に結びつかなかつたが、二十分ようやく同点にこぎつけた。この得点はRW山田からのパスをCF市村が直接したもの。更にこの後

石原のロビンソンがバックを抜ける所市村ダッシュして取り、十メートル位ドリブルして素晴らしいシュートを放ちついに逆転に成功。二のまゝ逃げ切つて、西Aロックで完全優勝し関東大会への第一関門を突破した。

	西Aブロック	メンバー
	リーグ戦	
1位	栄光 4勝0敗	GK 林(吉) RB 大前・林(茂) LB 内山 RH 石原 CH 田畠 LH 飯田・中山 RW 山田・清水 RI 大泉・佐藤(茂) CF 市村 LI 佐藤(晃) LW 菅沢・松田
2位	藤嶺 3勝1敗	
3位	湘南 2勝2敗	
4位	吉田島 1勝3敗	
5位	茅ヶ崎 0勝4敗	

県予選トーナメント

▽ 一回戦対関東学院

六月二十一日（先蹴）栄光

栄光 3 ————— 1 ————— 2 関東

ユートを決められてしまった。

後半に入り栄光は再び自己のペースを取り戻し、十分松田がドリブルからセンターリンクをあげ、市

関東大会の県予選トーナメントは県下4ブロックリーグ戦の一、三位計8チームへ希望ヶ丘、関東、慶應、翠嵐、小田原、鎌倉、栄光、藤嶺）出場の元に、六月二十

一日から藤沢県営グラウンドで行われた。このトーナメントで三位以内に入れば、七月下旬に甲府で行われる関東大会への出場権を得る（尚このトーナメントの結果小田原、翠嵐、慶應の三校が関東大会に出場し、翠嵐、慶應は一回戦で小田原は二回戦でそれぞれ敗退した。）

栄光はショートパスで球を進めのに対し、関東は対照的なロンタキックの戦方に出て来た。開始後しばらくの間はこのロンタキックに大分かきまわされたが、JH

飯田の活躍で盛り返し、十分菅沢一大泉—山田と絶好のパスが通つて山田ノントラップでショート。見事に決って一点先行。しかし栄光はこの後敵のペースに乗つてしまい、ロンタキックの応酬となつた。そしてキック力に優る関東におされだし、二十分中盤で球を得たし工にドリブルで持込まれ、RBとRHがマークでた所LWがフリーになってしまい、LWにシ

▽ 準決勝対小田原高校

六月二十七日（先蹴）小田原

栄光 0 ————— 0 ————— 5 小田原

前半は殆ど互角だったが、後半

はガタガタで完敗に終つた。

始めの十分回は小田原に圧倒され、両インナーにたびたび中距離シュートを放たれたが、全部バーの上を越えてしまい無得点のまゝ進んだ。十分たつ頃から栄光は反撃に軽じ、度々ゴール前に迫ったがバックの好守と深く戻ったし、のロングキックに阻まれ、逆に逆襲から「Wにドリブルされバックが抜かれて中距離ショートを決められ、一矢の先行を許してしまつた。この後は相方互角に進め、栄光に絶対のチャンスもあつたが惜しくも逃し、一点リードされたまゝ前半を終つた。

後半は始めから小田原にファイトで圧倒され攻め込まれたが、小田原の好守に救われ十五分頃まではどうにか互角に進んだ。しか

し、十五分縦パスからRWにもたれ、ショートした球がゴール前でワ

ンバンする所を捕らんとしたGKのタイミング悪く、二点目を許す。

この後は負傷者が続出でガタガ

タになつてしまい、小田原の一方的な試合になつてしまつた。FWのパスは全然通らず、縦パスをやつても皆バックに大きく蹴り返されてしまい、攻める事ができず防戦一方となつた。

一方バックもコンビがくずれ、おまけにGKが足をつらしてしまつた。

セイウインタが出玉せず、二十分、二十五分、二十八分と混戦から」
Iに三点たたきこまれてしまつた。

この試合は栄光の弱点が全部出てしまつた歎な感じで、特に自立つた事はキック力の相違だった。

△三位決定戦対慶應高校

六月二十八日（先蹴）慶應

栄光	0	—	0	1	0
	—	0	0	1	1
	—	0	1	0	

1 慶應

勝てば甲府へ負ければ駄目という瀬戸際に立つての試合だつた。慶應とは新人戦でやつて勝つているので皆自信を持つて望んだのが、FWの調子悪く八十分間の二〇の間一點も入る事が出来ず、1-0のスコアを持って敗れてしまつた。

猛烈な砂埃の中で試合は開始された。開始後十分間栄光は柔軟しい攻撃を見せたが、ショートが皆はずれてしまい、一点も取れずに過ぎてしまった。結果的にはこゝで得点出来なかつたのが最後まで響いた形だつた。その後は慶應の左

翼を主体とした攻撃も大前、田畠

イツスルが鳴ってしまった。

よく守り、やゝ栄光が押しぎみに進めたがFW調子悪く、得点出来ず前半を終ってしまった。佐藤

トがなかつた事だろう。其他敗因として考えられる事は、

のシユートがバーに当つてはねかえり、ゴール前を転々とすると云う

○FWのゴール前での突込み不足（得点力のなさ）

絶好のチャンスもあつたが、誰も

○インナーとサイドハーフのキー力の不足

突込みないでむざ／＼チャンスをつぶすという有様だった。

○キック力が無い事

後半に入つても前半とたいして夷りなく、互角のまゝ相方も無得点でする／＼と延長にもつれ込んでしまつた。延長前半六分慶応

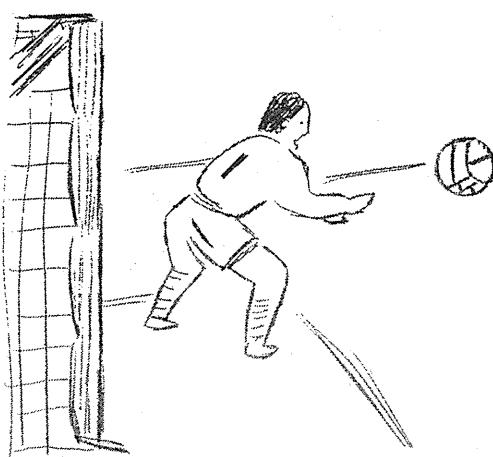
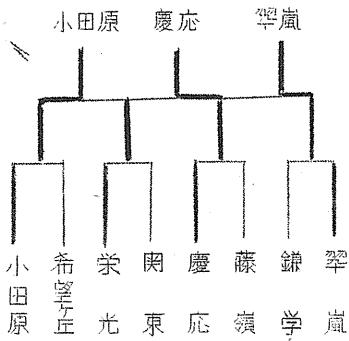
等が揚げられると思う。これらの敗因の他に関東大会の予選での調子のもつていき方が悪かつたとも言えるだろう。何はともあれ龍頭蛇尾という感じは免れない。

誰もあたらず、GK林もとび出しがわざかにタイミング遅くついてシユートを決められてしまった。後半に入り最後の力をふりしぼつて懸命に攻めたが守りぬかれ本

メンバー	林(吉)	林(茂)
GK		
RB	大前	
LB	内山	
RH	石原	
CH	田畠	
LH	飯田、山	中山
RW	松田	田
RI	田代	佐藤
CF	市村	
LI	大泉	
LW	菅沢	

選 県 大 東 会 関 順 予

トーナメント 組合せ



合宿

合宿日誌より

1959.
7.24
～
7.29

合宿を終つて

昭和34年度合宿参加者

◎ O B

穎原(3)・佐野、泉頭、永島、三
田(4)・石田(5)・青山、岩田、栗
原、綱島、中村、中山、矢板(6)
・生駒、伊橋、奥田、金沢、東
郷、佐々木(7)

以上十九名



7時0分

起床

体操

朝食

掃除

練習準備

練習開始

小沢、中牟、木下、近藤、佐藤
清水、唯野、富野、中前、林、
町田、松田、宮杉、矢島(10)

11時30分
12時20分
14時30分
15時0分

昼食
練習準備
練習開始
練習終了

18時30分
18時0分
18時30分
18時0分

夕食
練習終了
ゲーム開始
ゲーム終了

22時0分
21時50分

就寝
ゲーム開始
ゲーム終了

宇佐美、加藤(8)・飯田、石原、
内山、大泉、大前、佐藤、菅沢
田代、田畑、中山、山田(9)・阿
部、新井、市村、大石、太田、
9時15分

7時30分
8時45分

以上三十一名

14時0分
15時0分
16時0分
17時0分

練習終了
ゲーム開始
ゲーム終了
就寝

練習終了
ゲーム開始
ゲーム終了
就寝

合宿日誌より

7月24日(金) 晴

合宿第一日

我々K工部員にとって初めての合宿である。みんなどんな闘志、あるいは希望をもってこの合宿に臨んだが、こんな事を言うのはヤボである。「俺は夜中に暑れたんだ」という者が大多数をしめているのではないか。

K工部員にとって初めの合宿である。みんなどんな闘志、あるいは希望をもってこの合宿に臨んだが、こんな事を言うのはヤボである。「俺は夜中に暑れたんだ」という者が大多数をしめているのではないか。

K工部員は未だ聞いた事のない、モリチャーン、タレンの声を聞いて大喜びだった。

学校で初めて寝る時間になつた今日は先輩が少しずくなかつた。わざかに栗原さんと佐々木(民)さんだけだった。各先輩は就職などでお忙しいのであろうから、先輩がいなかつたからたるんだと言う様なヤボな事を言わない様に、気を

は栗原さんから初めてK工の幸さを感じ取られた。それはそれはもう本当に辛かつた。豪球が次から次へと要求されると、もう栗原さんがにくらしくなつてくる。

七時から中皿を混えてゲーム大会。K工部員はギャンタと言う、ものすごいと言つたら良いか、くだらねえと言つたらいいのか、何しろこれをやるとひでえ目に会うのだから、というのを習つた。K

K工部員はどんな拘束をもつて合宿にのぞんだかと、練習前の会合で聞かれた。皆技術の向上だとか、体力をつけるとか、部員同志の和を深めるとかいう立派だが月並な返事をした。K工の飯田さんに聞くと、去年は合宿を楽しむといふ様な風流な?お方もいたそうである。我々もその位の余裕とファイトをもつて、この合宿を有効に過ごう。

二時から練習が始まる。普段の練習と別に変りはないのだが、直夏の日に照されてみんなチヨットバテぎみ。なかには「先が悪いやられるな」なんて言う奴もいる。僕

。蚊が多くて始めは全然寝られなかつた。乗の定朝起きてみると、みんな蚊にやられたらしく眼たそをしていた。(阿部10)

入でしつかりやろう。

いよいよお待ちかねの夜がやつて来た。我々の合宿の最初の演芸大会が始まった。先ずリンゴ食い競争で幕をあけた。出場者はK工のスター我等のモリチヤン、K工代表はテシチヤン、K工代表は成宮君、先輩は栗原さんである。我々のホーフモリチヤンの勝敗かと思われたが、予想に反し、美しいみめかたちを必死にくずして奮闘したのがビリになってしまった。そこでかくし芸として、お得意のSing a song from my heart カードトリニティを歌つた。さて演芸大会もたけなわとなり、最後の余興として、サッカー部とつた奴がギャンタ、◆の丁Kをと

つたのがテ力と探偵になるのである。そして電気を消し、ギャンタが誰かの頭をボカーンとなぐり、なぐられた奴はギマーと呼ぶ。そこで元力が電気をパツとつけ、二人で聞き込みをやって犯人を探すのである。このゲームのだいご味は、電気をつけてからのギャンタのとぼけ様だが、今日のはギャンタがなぐる方に専心してあまり面白くなかった。

かくして夜は更け、就寝の時間がなった。明日に備えて彼らかな眠りを！

(町田10)

この日一日を通して僕の感じた事。

①規律をもう少し守るように。
(寝る時うるさい。七十回)

②飯不足

③練習にファイトがあり面白がつた。

④眠い。

(矢島10)

生れて初めてのサッカー部の合宿の第一日も、なんなく過ぎ去ってしまった。練習は普段通りの形式で行われたが、皆合宿と言う気分になったのか、大分張り切つ

やつたように思われる。僕達K工はこの合宿でもっと／＼基礎力をつけなければならないと思う。しかし、飯の不足、寝不足等でこれを行なうには大いなるファイトと努力が必要のようだ。

7月25日 (土) 曙後晴

合宿第二日

昨夜は皆寝つきが悪いようだつた。環境が変り、体もあまり疲れていなかつたらどう。朝はフォワードの者が（KⅡに寝た）早くから起き出し、シャワーを浴びてきた者さえあつた。もっと団体生活をしているという自觉を持つ必要がある。

午前の練習の前に栗原さんからK工の合宿生活がだらしないと説教された。その為か練習は皆フットボールがあった。あまり激しく動き回り、その上湿度が高く、朝飯を食つたばかりというので、はき気をもようした者が多かつた。そこで休みを充分にとつて、その後又活氣ある練習をした。

昼の自由時間は午前の練習の疲

れからか、十数人の者が昼寝をしていた。しかし、昼寝のために揺籃された部屋で、大きな声を出して昼寝をじゅました者がいたのは残念である。これも団体生活に対する自觉の欠如であろう。

午後の練習は、栗原さんの他に

青山東郷矢板佐々木、諸兄の参加により、一段と活気があつた。とにかく、三十名以上の入間が一度に練習するのであるから、活気のあるのも当然だろう。終りに二十分ハーフのゲームをしたが、ロンダキックの応酬で、バスヘ特に短いパスの練習にはならなかつた

。僕が今回の合宿に参加して最初に感じた事は、皆おとなしい人間にばかり集まつた、そこらのうそうむやうと変りないと言う事だ。結果恐るゝ事なれど部室に入ったその瞬間に感じた印象のみだから。現在我部の中に問題となつてゐる事があるのでどうか。もし何もないとしたら、君達はあまりにも消極で、あまりにも自主性のない部員ではないか。何か一つでもいいK工の連中はKⅡに、KⅢの連中は先輩になり部長になり文句を言つてみたまえ。高校生として何の不足もなく三十余人の生活が親子三人暮らしと同じである筈がない。僕としては勿論みんなが何の問題もなく、それで自分達の気がすむならそれでいい。もしも自分を許

せない者がいたら、適當な機会に
発言し、もつと部を良くして行こ
うではないか。

これらを解消するには、みんなも
つともっと大きな気持をもつて、

あまりにも多い規則規則はどんどん
打破し、自主性のある人間にな
つてもらう事だ。

今日の練習は僕も満足した。気
をしめさえすれば立派な行動が取
れるという事を、はっきり自覚し
てくれたまえ。今度こそ小田原な
んてやつづけるというつもりでし
っかり練習し、この合宿生活を有
効に過そうではないか。

他の部なんてと比較したり、俺
達はしっかりやつてる等と、うぬ
ぼれてはいけない。栄光の蹴球部
はそれなりの自覚と責任をもつて
あらゆる行動に反映してもらいた

い。まだ一部のたくましい伝統
に磨きをかける必要がある。自分
自身の責任を大いに自覚して頑張
ってくれ。 (栗原六)

(飯田九)
なかつた。?

午前中の練習の辛かった事は私
をすいぶん驚かした。そして多く
の者が気分を悪くし、やっと練習
に耐えていたようだった。しかし

あれ位の練習が続けば、体力と同
時に技術も身につくであると信ず
る。午後からはフォワードの方が
辛かったようだ。終りにゲームを
して練習を終了した。

僕の感じた事は、練習というも

のは精神力と体力の戦いであると
言えると言う事。そして、精神力
が体力を征服した時は美しいフレ
イとなる。私はこれについて皆が
考へ、そして部活動を通じて精神

7月26日 (日) 晴
合宿第3日

朝6時に起されはしたが、昨晩
力々を張ってよく寝られたのかそ
う寝不足でもなかつた。しかし、
やはり朝早いなあと感じた。
朝飯は皆昨日にこりて、少し少な
目に食べた。

昨日よりも朝の練習は楽であつた。
。午後からの試合の事も有、少し
ゆるかつたのだろう。午後からは
対暁星親善試合が行れ、現役戦と
共にOB戦もやつた。試合前相手

力を身につける事を望む。

これは英語を直訳した文であ
るので、日本語の文章となら

がきたないと言つ事を言われ、相

当気にしていたらしく、栄光ファ
イトあり意気はあつたが、どうも
バスが通らなかつた。

夜は岩田さんのウクレレ、タレン、
モリチャーンと相交らずの人気者の
歌、昨日好評の栗原さん青山さん
のコード。お蔵でよく眠れた。?

(清水 10)

昨日の練習のにがい経験がある
ので、朝飯は軽くし、練習に入る
。午後暁星と試合があるので、皆
大いに張り切る。練習の途中から
先輩が続々とやってきて、力士を
入れてくれた。みんなファイトを出
したので、大して苦しい練習では
なかつた。

。対暁星親善試合

現役戦

栄光 1 { 0 - 0 } 0 暁星

{ 1 - 0 }

暁星は予定より早く二時頃や
て来た。スルーとタラーの混つた

音としやれたそろいのズボン
をはいている。やはりちょっと高
級品の集りだなと感じる。ユニホ
ームは白いシャツの胸に星印があり
、ズボンは緑、ストッキンタは
赤と言ういでたちである。ひとつ
ひねつてやろうと背張り切る。

試合開始。両軍共大いに攻める
が決めてがない。栄光バックも二
三のピンチはあつたが堅実に守る

。たゞフォワードのコンビがよく
とれず、大した争ない相手バック
を破る事ができない。これには佐
藤(晃)市村の欠場が響いている。
ついに前半は 0-0 のまゝ終る。

藤(晃)市村の欠場が響いている。
ついに前半は 0-0 のまゝ終る。

後半に、栄光はインナーに中山、

栄光 0 { 0 - 0 } 2 暁星

OB 戦

メンバー
GK 阿部・太田
RB 大前・山原
LB 内石・畠山
RI 畠山・田代
CF 佐藤・中山
LI 田代・菅沢

(林 10)

GKには初出場健闘の阿部に変り
太田を送る。後半になつて相手が
かなり疲れたので、中盤の球を取
り、どんどん攻めたが相手GKの
攻守と、FWのミスで決らない。
しかし尚も攻めたて、ついに CF
のバスを RI 大泉ショート、GK
ミスして先取点を挙げる。その後
も同様攻め続けたがついに点を入
る事ができず、バックもゴールを
守り切つて遂にホイッスルとなつ
た。

メンバー
 G K 栗原(6)
 R B 泉頭(4)
 L B 矢板(6)
 R H 佐々木(7)
 C H 佐野(4)
 L H 加藤(8)中山(6)
 R W 東郷(7)
 R I 三田(4)
 C F 中村(6)
 L I 須原(3)栗田(7)
 L W 岩田(6)

7月27日

合宿第4日(日)

晴

昨日の練習で疲れたのか、みんなぐつすり眠ったのにまだ寝たそなうな顔をしながら起きた。昨日同様朝飯を少くしたのでみんな調子がよかつた。今までの疲れも吹きとばしてみんな元気いっぱい頑張った。午前中は暑さの為相當くたばつたが、午後からは涼しくなり樂だつた。午後の練習には永島さんが見え、フォワードは大分しぶ

られた。最後にいつもの通り二組に分れて試合をした。負けた方はランニンタ四回と百メートルターンショウをしてクタクタ。これじゃ絶対に負けられない。夜は待ちに待つた西虱がボストンから届き、みんなで食べた。今夜はタレン、モリチャーンの歌を聞けなくて淋しかつた。

(山田タ)

今日のゲーム大会は最初がセスチャ一。バックとフォワードに分かれ、それべく五つのゼスチャ一をやつた。中山さんが「世界をかける恋」のゼスチャ一、トクさんが「ミッキーにふられた男」佐々木さん、「ぼつちゃん社員」の名演技をやつた。トクさんは「美智子

娘」までいったがこれも時間。フォワード、バックとも二回あたって2-2の引き。次に「相手探し」をやつたが、これは大して面白くなかった。最後にギャング。これも皆真面目にやらなかつたのでまとまりがなく終つてしまつた。フォワードの寝床はかやを吊らないので、蚊が非常に多くて寝られない。

(宮杉)

10)

7月28日

合宿第5日(火)

晴

午前の練習はいつもの通り始つていつもの事をした。たゞ永島さんが「ぼつちゃん社員」の名演技をやつた。トクさんは「美智子さんにふられた男」までいつたが惜しくも時間。佐々木さんも「社

し休憩。後バツクはピンチキックとクリヤリンタ。フォワードはピンチキック（ショート）をやった。これは大変バテた。これで全部の力を使い尽した感じだった。

佐藤
10

午後は修道院と試合があつた。向うは一人人数が足りないので、一人貸してくれと言つてきた。向うへ行つたのは小沢。皆の肩までもないのにフルバックで大奮闘。僕等が「チエスター、丁イス」と言つたら、皆チエスターだと思つ

て言う事にや「チエスター、バス
パス」てんで面白いの。

結果はシーソーゲームの末4-1で栄光の勝。修道院と三回やつて初めて勝った。(中前10)

夜は合宿最後の夜なのでエネ大
会をやつた。出し物はK工^{ハサウエイ}が舊歌
と喜劇「気狂病院の光景」。」お医
看さんの中前君、得意のズーズー
弁でなかなかのメイ演。「アツハ
ハハ」と笑ひ気狂の林君^{Hanayashiki}
your friend Tom Donley^{トム・ドーリー}ハグドン君
fled and say "ヒマーリ" 気狂の近
藤木下画君、「アーバア、アーバーン」と
ラヂオ気狂の矢島君などなかへ
愉快だった。K工^{ハサウエイ}は日本民謡集と
輪になつての「炭抗節」の踊り。
この輪に入つた栗原さん、調子に
乗リ「サヅヤオツキサークケムタ
ーカロ、サノヨイヨイ」と終る度
に「スチャラカチヤンチヤン ソーキー
ガ」と何度も続け万場爆笑。この
後エネを食つてから、軟庭に迷惑
をかけない様に講堂二階合併教室

に移り、十一時まで合宿最後の夜を楽しんだ（内山タ）

「この表紙には日誌と書いてある

九月九日

してあり、今はこれからのお夕が

卷之三

んでいくかの、ちょうど分かれ目に

卷之三

決る、と言つても過言でないと思

の合宿から技術的なものの他に何

卷之三

あるだろうが。

僕の願いとしては、このきびしい

練習の中から「なんだこんな練習」と言う負けじ魂。つまり、苦境に陥ってもなにくその起き上れる精神的な強さが、皆の心の中に、合宿をふり返って見た時存在していれば、と云う事である。

これがこの際最も大切な事なのである。これ以上何も言う事はない。

(佐藤 10)

7月29日 (水) 快晴

合宿第六日

昨日十一時まで騒いだので今日

は七時半起床であつた。しかしフ

オワードの方は七時半に一回起き

たが、あまりに眠いので市村が持

っていた俺の時計を十分ばかり遅

らせ、ドアに錠をかけて寝ている

ふりをした。そこはフオワードの

コンビの良さで団結したが、あまり長くサボルとましいので十分位で飛び出して行つた。バック陣はこれを読むまで気がつくまい。練習前にシャワーを浴びてタランドに出てゆき、十分位で練習開始の時刻となつたが、これが最後の練習だと思うと気持が落着かなかつた。

練習も紅緑試合を最後として完全に終了した。
(大泉 9)

合宿反省会

1 無自覚消極的な者が多い。

a 徒然過ぎ、反発力が全然ない。

可もなく不可もない様にしうという意識がある。

長練習内容の点で体力をつける練習が少ないと意見があつたが、部員個々の自覚で充分補う事ができる。

c 演芸会に於ても、周囲の者の積極的態度が見られない。

掃除をやってから合宿の反省会

2 練習内容は大体よかつた

a (重複) 体力は自分でつけよ

うとする機会が沢山ある。

最後のランニングはもう少し
がんばりであるべきだ。

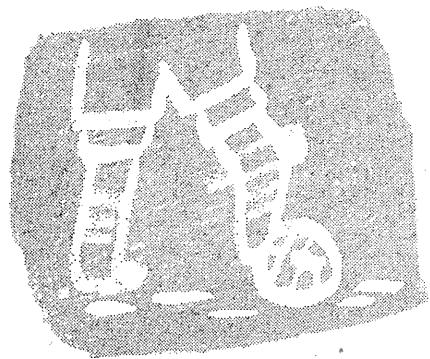
○種類を制限して、同じ練習を

繰り返すのは、反省の機会が
与えられるから良かった。

△バックのキック、フォワード
の速い強引なショートの練習
がまだ必要である。

欠点をくりかえさない様に、奮起
する事が必要である。

(音沢)



「丁君に来た手紙に曰く……

高橋謙之助君

練習には行くツモリです。

成宮隆夫君

練習は一日も休まず行く日
トイ。

宮坂研一君

モシカーモシカーモシカ
モシカーヘあーくたびれた
」もしかしたら、行けね
かもしれねーズラ

「中三の連日長生きするゾ」とは
丁君の言。

ところがある練習日、Q君がいる
のを見た丁君
「オーケ、お前ヨク来たな」
僕は丁君も長生きすると思います
ある。難しい問題である。

最後に、来年の合宿が又今年の

○---寝言---○

寝言というるのは各人各様なかなか面白いものである。(言つては本人には気の毒だが)合宿での寝言を二三紹介。

佐藤「四つ切だよ」

「一枚だけだよ」

市村「九十七・九十八・九十九ア大

麦だ」

矢島「どうしたどうした、タッシ

ユだ」

ちなみに、佐藤君は部の写真係

。市村君は足の故障で練習が出来

ず、合宿ではもつぱ

ら数学の方面ばかり

り扱っていた。

島沼は

す

アイター。

○---洗濯魔---○

富野輝一郎君

何しろ富野君の洗濯ときたら涙

いもの。毎日練習の後に

二回ずつ真白にな

るまでやる

だから

おそれ

○---ある朝の出来事---○

七時になつたのでむつくり起き

る。おそれ

上つた市村君とトクサン。目で合

図みんなを起こしにかかった。

トクさん「おい!!ボケボケ!!

おきるよ。オイ!!ボケ!!」

ボケと呼ばれた男

「ウ ウーム

ああ もう

七時

（むつくり

起き上る）

トクさん「あついけね

エボケじやなかつたのか」

青さん「うん、ううむむ――

ねむいねむい」

「セントク」

「違う、取入に行くの」

「―――」

いびき魔――佐藤晃一君

睡眠魔――菅沢俊典君

愛眠妨害魔――飯田則幸君

尻切れ魔――泉頭篤二氏

ねごと魔――佐藤茂樹君

合宿を終つて

九期生リ主将リ石原 博

習というだけになってしまった。

しかし、左右二列に分れて蹴るの

大きな意欲を持つて望んだ合宿

一度で、フォームを直したりする事

は、左足の蹴れない人の為にもよ
かつたし、時間の節約にもなった

の一週間は、アツというまに過ぎ
てしまつた。今年の合宿の目的は、

オーバーに基本技の向上、特に高一部
員がある水準まで達してボジョショ

你だ、しかし、何と云つても、FW
が十二名、バックスが十五六名

オーバーに自信をつけるために、ペナ
ントに自信をつけるために、ペナ

ルティマークあたりからシュー
トを数多くやつた。シューートのタ

イミンタが遅い事、強引なシュー
トが無い事は前々から言われてい
た事であり、是非これをマスター

三には、部員のまとまりを固くす
る事であった。基本技としては、
キックカ・シュートカ・トラッピ

ンタ、又一応基本をマスターした
者にはキース力を持つ事目標
とした。キックについての練習は

横隊に並んでのフレースキックで
あつたが、初日は先輩の数が少な
く、但し指導が出来なかつたのは
残念であつた。このフレースキック

は出来なかつた。次にシューートは

シューートであるが、これは早目のシュー
トに自信をつけるために、ペナ

ルティマークあたりからシュー
トを数多くやつた。シューートのタ

イミンタが遅い事、強引なシュー
トが無い事は前々から言われてい
た事であり、是非これをマスター

したい。この為に今後練習の時に
ゴールエリヤとペナルティーエリ
ヤのラインを引いてやると良いと

思う。バックのシューイングは一
回しか出来なかつた。しかし、シ
ュートイングがあまりにお粗末な

事で、FWへの低い浮き球のパスを

まことに予定の時間が来てしまつた
場合、やはり調子が出るまで続け

て、FWへの低い浮き球のパスを

目的としていたが、人によつて技
術に差があり、たゞのキックの練

習は各人のキックの研究と言う程

FWは永島さん、中村さん等の専

作家からのコーチを受けて、バスケットボールが前より早くなり、又、大ざつぱな得点のコースというのも、今後の指針は与えられたようだ。バックは特にコンビの練習はやらなかつたが、ゲームや、対曉星、対修院戦でハーフのもどりやフオロー、フルバックのマーク等の欠点がはつきり表われたのは有意義であつた。

のは残念だった。先輩の方は沢山見えたが、現役部員との交わりは少なかつたようだ。これは、現役先輩両方に責任があると思う。最初のうちはゲームがあまり面白くなかつたので、終りの方ではゲームが始まると外へ出でていってしまふ先輩もいた。現役と先輩が一緒にになってゲームを楽しめるようにならないものである。又、小さな事したいものである。

りで今の蹴球部の痛い所をつかれた形だった。現在の高二による各係は、高二部員が部の中心者として何らかの仕事を持つべきだと考えて何らかの仕事を持つべきだと考へて、このまゝ続けるが、部員全員に係や当番を越えた自主性を望みたい。『団体競技にあっては、そのチームを構成する一員は飽くまでもチーム全体の利害によって行動すべきであり、各人個

さて、次に合宿に於る団体生活について述べてみよう。今年は参加者が四十名近くあってどうしても一部屋では寝られないで、F.W.とバックに分れて寝た。これは

ではあるが、皆が遊んでいる所で煙草を吸われては周囲の者が不愉快なのはわかりきつているのに、得意気にやっているのは先輩として看えてもらいたい事である。と

々の成敗は向うところではない。』これは池田潔の『自由と規律』の一節であるが、この考え方を我が衆光蹴球部にも徹底させていきたいものである。

単に寝る時だけの便宜であつたが
、これがFWとバックの対抗意識

にかく、先輩と後輩の深い交りは出来なかつた。

以上私が主将として合宿に参加し感じた事を述べたが、この拙稿

の対抗意識がいろいろな合宿生活に、溝のような物となつて表れた

番とあるのは皆に自主性がないからだ」と云われたが、全くその通

が今後の皆の生活に又貢献しに何らかの型で役立てば幸いである。

以上私が主導として合宿に参加し感じた事を述べたが、この拙稿

GLOSSARY

Glossary

GOSS-P

GLOSSARY

○团体列車で

十一
話

高校リーグ戦対藤ヶ崎の時。大船
駅で東海道線を持つていると、
団体列車がつきました。早速乗
せてもらおうと姫森紅葉の両心

事で、途中平塚で車掌につかまり列車が停らぬまゝ小田原まで直行。「送還」という判を押してもらつて帰つて来たと言つから、御念の入つたも

「あゝ〇〇さんの心臓の半分で
もあつたらなあ」
「あゝ□□の心臓が少しでもあ
つたらなあ」

職は車掌の所へ交渉に行きました

た。セミが「名古屋まで
な」と言われてギヤフン。

KJのグレンとタケチヤン留と一緒に来たはずなのに、どうした事か試合場に姿を見せません。

「どうしたんだるう」などと言つていると奥に遅くなつてから

登場。日ク「团体列車に乗つて小田原まで行つちやつた」との

ある反省会で江の松田君云う
事しきり、

○心臓の話

昭和四年度の第一試合対茅ヶ崎の時、試合場へ向う電車の中で高校の試合初出場の松田君と佐藤(晃)君の言う事には「オレウレシクシテネレナ力タタヨ」

○練習らしくねえや

ズーズーしいのと、うるさいのと、食い意地の強いのと、スレーテルのと、頭の加減がおかしいので有名な紅のS君、向にしろそのカンロクは凄いもの。練習時間に遅れるのなきへとも思わぬらしい。曰く

又の君日頃まじめなのに春休みのある日練習にこない。不思議に思つて翌日聞いてみると

「校門の所まで来たけれど皆もう練習始めていたんで来るのやめちゃった」とサ。

○通算十連敗

我がキヤアテン戸原君のトスに弱い事は有名。

新人戦の五連敗に引き続き、リーグ戦でも輝く四連敗、更に関東大会県予選で一連敗、通算十連敗の偉業を成しとげた。

○「ショボイ」

トエリ君の口タゼ。何かあると「ショボイ」

○時計に生きる

「大前今何時」

「三時二十一分三十六秒」

やけにイセイヨク答えるが、必ず五六分狂ってるんだから世話はない。

「さッ後三分だ。急ごうよ」

というのは大前御大。帰宅中、駄への道で必ず云う。

彼氏時計が無くなつたらどうして生きてゆくだらうか

○あるファイトマンの物語

中学時代闘将とうたわれたSH佐久間さん、ある試合で例のように「マカシトキ」のカケ声もろとも蹴つたと見えた瞬間、中天高く飛んだのはデッカイスパイクであった。

○暑い暑い日の出来事

当時の市村君、タラソードの片隈、水道のそばの木藪に腰を下して日く

「あーあっ暑いなあ。こんな暑いと闘志がわかねえなあ」と、それを聞いた穎原さん

「エッ何だつて」

「闘志がわかないっていっただよ」

「トーシ、トーシってなんだよ」

「闘志って闘志だよ」

「フーンなんでもいいや。それより俺はファイトがわかない。」

とは穎原さん。

○カルタ会

正月のカルタ会はなかく面白

いものである。

ある年の正月ある所で、現K工
が数名集ってカルタ会を催した
。その時の出来事。

「ワガ」

「あつ、又内山が取りやがつた」

なり

「――世をウデヤマと人は言う

なり

A「ヒート、俺の所にやないぜ、
そらそつちだ、お前の所だ」

B「あれ、俺の所にもないぜ」

A「じゃお前の所だ」

C「違うねえよ」

A「デヤー向うだ、オイ向うだ
ぞ」

B「あれ、ねえな」

A「小母さんまちがえたんじや
ないですか」

小母さん「変ねえ、まちがえな

かったと思つたんだけどね。

もう一度探してござんなさい」

A「といつても俺の所にや――」

全員「――」

A「俺の所にあった」

○セントウ トクジ

ある春の日、一人が云う

「ねえトクサン。古語で“トクタ
つて何んという意味だか知つて
る。早ク早クつていう意味だよ」

トクサン答えて曰く

「そうさあ。だからセントウだ
よ」

○高工の人気男

言わざと知れた矢島のモリチヤ
ン。ある日当時にK工現K工の
丁君を指して曰く、

「あの人ドロボー見たいだね」

○「日課ですよ」

合宿というものはその流行語無
しでは語れないものです。ところ
で三十三年度、即ち昨年のハ

ヤリコトバを紹介しましょう。
※ナンジの名は「日課」なり。

「日課」とは何き。

あるゲーム中に出来た言葉であ
る。

ある人が出でぎたと思つてみた
まえ。その背中にマージャンと
書いた紙つ切れをぶら下げたと
思ひたまえ。そして皆に見せた
としたまえ。しかし当人はそれ
を知らないとしてみたまえ。そ
こで周りの人々が質問し、当人が
直に受け答えしたと思ひたま
え。

皆「君はそれをいつしますか」
当人「エー朝します」

皆「毎日しますか」

当人「エー毎日、日課ですよ」

サー、喜んだのは永島さん。喜んだのなんのって次の質問がふるつてている。

永島「長さはどのくらいですか

当人「……いやもう書くまい。

唯当人（泉頭さん）がそれに対し奥にはつきりとそのものぞぶりの考え方をした、とだけ書いておこう。

「日課よ永遠なれ」

○名句かなあ、名句かなあ、

名句かなあ、

○ハラの虫がグーッ

運「……」

その夜の遊びの時、悪いヤツばかりの蹴球部の事そのシトヘ言わすと知れた永島さん）サンザひやかされる。

そこで元バラさん芭蕉よろしく「ハンドルも 人によつちや 動かねえ」

「ビヤ、スマーさんが五人乗つたうどうなるんだ」

○ハラの虫がグーッ

対藤嶺戦の帰り、紅の町田君を眞中にした連中五六人強いでいる。

「アッキコエルキコエル」

その年の合宿の話。あるシトが高校の校庭でオートバイに乗つてタルタルまわっていた。よし

やい」のにトックイになつてしまつていた。そのシトついスピードを出し過ぎて、あの金綱にドシンとばかり衝突。

さあートクサンの書ぶ事喜ぶ事曰ク「金綱に引っかかりやがつた」

藤沢でタクシーに乗り、どうしても五人しか乗せてくれない。以下ブーアー言った話

「ヘエー何でだあいつ小さかつたじやないか。」

運「いやだめだ。ちびだつて大人分の電車債取られるじやねえか」

「やつぱり湘南の方が強くな」

何とハラの虫の鳴く音が聞えた
そうだ

○「五人が定員なんだ」

藤沢でタクシーに乗り、どうしても五人しか乗せてくれない

人湘南を応援します。

「湘南でやつぱり強インダナ」

「栄光下手、敗ケチャエ、敗ケチ

エ、ワーイ」

「僕のお姉チャン湘南行つてん
だもの、ワーイ、栄光敗ケチャ

エ」

すると、それを聞いたK工の松

田君ダマラセヨウトケンメイタ
ツタンウデス。

○才前サツカ一知つてんのか

試合といふものはせつてくると
どうエキサイトする物である。

ある試合での事、栄光の応援に

来た一人がでつけてい声で「才前

サツカ一知つてんのか」サアー

目を三角にしたのは相手のバッ

クス。「コンニヤロー」とばか

りそばにボンヤリしていた人相
の悪いO君に食つてかかつた。

この試合、相手バックス全部に

ケンカを売られたO君、今日は

あちら明日はこちらと連戦の疲

れを知らぬ健闘は、人の涙をさ

そうものがあった。

あゝ栄光涙あり、か。

○サツカ一とは不思議なスポーツ

相手が八人、「ちらが十一人で
試合して〇一〇の引分といつた

ら皆変な顔をするだろう。つい
で、もう少しオドカシテヤロウ

それから一ヶ月後同じ相手と

戦つて〇一〇で勝利を得た。今
度は相手も十一人いて。

そしてその時、栄光の中学生の
一人がこんな事を言つた、と聞

いたらもつと変な顔をするだろ
う。

「栄光の高校つてシオイんだな
部員諸君。これだけは呴つて

」

○ドウゾヨロシク
イヤドウイタシマシテ

蹴球部員は気の荒いのがいるか
わり、あまり淑手なケンカをし
ないところはなか／＼感心であ
る。こゝで悪い見本として一つ
のケンカの型をあげよう。

絶交する事六月余、互いに心中
相手の出方をうかがつて樂しん
でいたというから、ナントモハ
や。

秋の日もトツアリと暮れた「る
、その御両人愛すべき先輩の手
によつて絶交をとかされてしま
つた。そのアイサツに

「ドウゾヨロシク
イヤドウイタシマシテ」

おきます。本当にケンカする気
だつたら、五分位凄え熱でやつ
て後はすぐ仲直りする事。

○「君勉強しているかい」

中学校舎から高校校舎への道の
途中で、又部室で東郷先生に会
うと必ず云われたものだ。

「君勉強してるかい」

実際困ったものだった。ツハイ
ともツイエツとも言えず、そし
て後に必ず

「よく勉強しなさいよ」

と来る。「ハイ」と方々の程で
逃げだす。

その後、もう成績に見切をつけ
たのか、又安心したのか聞いた
事はない。もつとも、その後部
室では先生に余りお会いした事

はない。

○伊東君談話録（手首捻挫の際）

伊「アーアイテテテテアーアイテ
ー」

A「ホントカ。ヤバイナ捻挫か
もな。オイイタイカ」

伊「ウンイテー。あつそだ練

習できねえな。シメシメ」

B「お前本当に痛いのか」

伊「ウン、アーアイテテテ。本差

タヨ。本当に痛えんだよ」

A「これじやタクシーだな」

伊「ウンソウタ。ソウタヨ。ド

コマタ、ネー」

B「病院までだよ」

伊「フーン。オーライ〇×（彼の
クラスの者に対するらしい）
ネンザタヨ。タクシーで行く
んだぞ。イイダロー」

「オイ。少し静かにしよう！」

ヒー、オマエ本當に痛むーカヨ」

伊「アーツ痛エ。イチエイチエ
ー」

彼は奮んで家へ歸つて行きまし
た。何しろ四週間も練習しなく
ていいんですからね。

「ウーン」



県体選予生内正樹

九期生 内山正樹

△一回戦 不戦勝

しかし、五分両び絶好の左コーナー キックを上げられ、左にヘッ

デインクシュートを決められる。 ル前での詰めを突き2-1のまゝ

△二回戦

対関東学院

八月十一日
(於県営B)

栄光	2		
0	1	1	1
0	1	0	1
関東			

十時奥東のキックオフで試合開始。 十時奥東のキックオフで試合開始。 前半で早いパスを通し、シュートを放ち、これを更に、奥込んで決めて同点に追いつく。これから前半終了まで栄光のペースで進められたがもう一步の押ししが不足で加点できずにつる。

後半開始直後市村のドリブルからチャансをつかみ、右へ出てシートを放ちGKはじくところを

上に陣取り、一気に勝負を決める作戦に出た。しかし決定的なチャансなく互格のまゝたちまち十分は終つてしまつた。後半に入ると

の雨で少し滑り、あまり良くない。二・三人突込んでゴールインなつたかに見えたが、レフエリーにコーナーキックを

開始早々攻められコーナーキックを取られ危なかつたが幸くものがれることを逆襲され、バックパスの失

敗から突込まれ角びリードを許してしまつた。この後相方ともゴーディングシュートを決められる。この後暫くの両攻め続けたが得点出来ない。しかし前半も半ばを過ぎた頃、左翼から攻め込み、ゴーディングの中に入飛込み、待望の二ム前で早いパスを通して、シュートを放ち、これを更に、奥込んで決めて同点に追いつく。これから前半終了まで栄光のペースで進められたがもう一步の押ししが不足で加点できずにつる。

前半はトスには負けたが優れた風上に陣取り、一気に勝負を決める作戦に出た。しかし決定的なチャансなく互格のまゝたちまち十分は終つてしまつた。後半に入ると風下と云う不利にもかゝわらずゴーレ前でのフリーキックをきつけにかさにかゝつて攻めつけた。敵のゴールキックをR.H.石原在中心とするハーフ陣の活躍で全部取

り、次から次とショートを放ち五分向の向敵バックをゴール前に釘づけにした。しかし惜しくも得点出来ず、同点のまゝ終ってしまった。抽選では不運にも負の方を引いてしまった。

かくして昨年一昨年と同じ結果に終ってしまった。「栄光はイーチャー杯には強いが、国体新人戦には弱い」というジンクスは破れなかつたのである。国体に弱いと云う原因はどこにあるのだろうか。

昨年、一昨年の場合はさておいて今年の場合を考えてみよう。
まずこの試合での直接の敗因は、全体に言える事は、ファイトが不足でタッチで完全に負けていた事である。フォワードの方で言えば攻めがのろくショートのタイミング

ングが遅いと云う事。それからパスをした後直ぐに次の動作が取れない事等が挙げられる。又、バックスについては、キック力がなくマークがあまい事などである。「これらの敗因を見てみるといずれも合宿の目標となつた事ばかりである。では合宿の成果は何も上らないかつたのだろうか。僕はそうは考

えない。もし「この国体予選が合宿の直後にあつたなら、この様に簡単に敗退しなかつたと確信している。それではこの試合の敗因の原

因は何か。僕は合宿からこの試合に至るまでの間のコンディショ

ンで出席率が五割程度であり、特にフォワードはメンバーも組めない事等が挙げられる。又、バックスについては、この極端な状態でマークがあまい事などである。「これらの練習も満足にする事は出ださなかつた」とも言えるのではないだろうか。しかしこれも元をなせば各自のコンディションが整つていい事である。要するに、「国体で活躍できるか否かは合宿から試合までのコンディションの調整如何である」と云う事が言える様だ。

GK 林前山
RB 大内原畠
LB 石田太田
RH CH 藤代村
LW RW 市大
RI CF 泉澤
LI LW

(茂)

蹴球部員に対する質問

何故俺達はサボルをやるか？

九期生 田畠哲也

「オイ、お前練習サボッタな」

つたらさしずめ音と思われるぜ。ある事は想像されるわけだ。

そう言われて気持の良い者はある

「忘れちゃったんだ」

まい。そしてもしほどに練習をサ

ボッタ着なら、何とも言えぬ複雑

では一つ考えてみよう。何故「

な心焼になるに違ひない。平然と

時に脳膜炎でもおやりで」と聞か

れるぜ。

して「アーサボッタよ」と答える

急性のハライタを起した者や、突

然力ぜを引いた者が続出するかモ

程腹の生つた者は居ま

しれない。

彼は心の中で練習へ行けなかつた

種々の理由を見い出そうとあせる

一人一人それについて考えて見て

。又はもう見つけてあつたかもし

れないと。

「知らなかつたんだ」

冗談でしよう。十日も黒板とにら

めっこしていく、知らない等と言

"Plaudite amici comedie finita est," も案外解決が思いつかない事に気

(諸君喝采せよ劇は終つた) ず、だろう。即ち、君はそこまで

つまり少くともサッカー部員の心

考へた事はないのだ。「練習に出

には「練習に出て来るのが当り前

るのが当然だ」と云う考へを、君

であり、余程の事がない限り不参

はたゞウノミにしていにだけなの

加に許されぬのだ」という観念が

だ。又、君の長年強いられていた

従順さがそれを考へる事を忘れさせたのだろう。そんな事を考へた事のない君は、少々おもしろくなかったり、あした試験があつたり又オールスターゲームがあつたり野球があつたり、自分がサッカーの試合に出れなくなつたりすると、サッカーをするのが君に取って無意味になるのだ。『何故「練習」に出るのを当然だ』がそれをおえた事のない君は、たゞイヤになつたり他におもしろい物がある、それだけの気分でサッカーをサポートなのだ。即ち、君がサッカーに充分なる愛着をもつてゐる時は、こんな問題は必要ないかもしだれない。

しかし、サッカーに対する不信が自分の心に生じた時より所として、又今生じてゐる君の解決方法としてこの問題を解かねばならぬ。「人間は考へるあい」だそうだ。
考へる事のない人間はあいなのだ。君は少くともサッカーのその一点に因してあしであつて人間ではない。へその一点に因してあしである事は、サッカー全てに対してもある事でもあるのだ。
——これは後に述べる。）

その前に『何故「練習」に出で来るのが当然だ』かの答として「もしない者も、同じようにもう一度考へてみようではないか。

「練習」に出てくるのが当然」と云う考へは、「何故練習をするか」の裏返しの表現なのだ。つまり練習の目的（何故練習をするか）を極める事により、「練習」に出てくるのが当然」という考へが生ずる。だから『何故「練習」にでてくるのが当然だ』かは、「何故練習をするか」を極めればよいのだ。
「人間は考へるあい」だそうだ。
考へる事のない人間はあいなのだ。君は少くともサッカーのその一点に因してあしであつて人間でない。へその一点に因してあしである事は、サッカーをやるかに含まれる事である。又「何故練習をするか」は「何故サッカーをやるか」に含まれる事である。こゝに形を変えた一つの問題が生ずる。

練習に出てくるのが当然だ」とされるサッカーをやるか。「何故サッカーをやるか」だ。
即ち『何故「練習にできるのが当然だ」か』は「何故サッカーをやるか」という問題を提起する

解決し得たと稱する事のできる者は一人もいまいと信する。それは最終的に「生」の問題に直結するのではないだろうか。しかし、その解決を得る事ができようがでまいが、サッカー部員としてこれに取組ねばならない。これに取り組む事を拒否する者は、部員たる

「何故君達はサッカーをやるか、又何故試合で勝とうとするか。」

みじめだった、ゆううつだった、あの日、あの昨年国体で敗れた日、雛さんが俺達の耳に叩き込んだ問

題なのだ。

そして今、「これは俺達蹴球部員特

に高校部員の問題となつたのだ。

「何故俺達はサッカーをやるか」

これは容易には解決できない問題なのだ。突きつめても突きつめて知るいや感じられる部分はほんの

は様々の場所の最大の疑問を感じさせる。その感じを統一させた所に一つの大きな最大の疑問、即ち「何故サッカーをやるか」並びにその延長とも言えるし、様々の疑問の中に入ってしまうとも言える「何故勝とうとするか」が存在するのだ。

講演するなら、一つの物が及ぼす影響からその物を知るやり方なのだ。だから、疑問が感じられた物に於て小疑問は大体理解し得るわけだ。そこで一つの小疑問を追求し得なかつたという事、即ち小疑問を考えなかつたという事、又そ

そこに於て、必ず最大の疑問である「何故サッカーをやるか」に突き当ると思う。そして突き当つていう事は、小疑問に対しありであると同時に、最大の疑問に対してもあいなのだ

も先がある。恐らく、俺はこれをわざわざした。しかし、様々の「何故

その二は、自らがサッカーによつて経験した事から突きつめていくのだ。

体験した興奮情熱を知り、それがどんな所から出てきたであろうかという事を突きつめていく、因果論的な方法によりサッカーはいかなるものか、とその本質も尋ね、そこからそれを自らの場合に当てはめてゆく。どちらかと言えば、その二の方、が入り易いかもしれない。

こゝに一つの例を示そう。無論君は考へないで良いのではない。人間になるのだ。あいから人間に脱皮するのだ。その一参考として俺達KIIの仲間の一人が、K工の時に書いた手記の一部を示しておこう。

かゝ篠さんが国体の最終戦の反省会に俺達に向いた言葉だ。
「何故サッカーをやるか」
各人各様の結論を下した事だろう。俺はこう思った。その考えた経過はこうだ。
今迄最も楽しかった、最も意義のあつた、最もサッカー部らしかつた時代と言えば、あの中学春の大会をの練習、そして大会、尼瀬戦の勝利、秋の一中の敗戦、あの死にもの狂いの練習と尼瀬戦の快勝、冬季大会ではなかつたかと思つてゐる。

そこで俺達がサッカーの真髓をつかみ、その意義を教えられたと言つてよいのではないか。そこに俺達の得た事はファイトではなかつたか。このファイトと言ふ言葉に代表される若々しさ、即ち出来ない事、敢えてやろう、不可能を可能たらしめようという意欲、そして更にそこに生きる事の意義、それが俺達と共に生きる喜び、その懊惱を感じたのではないか。不可能を可能にする事がサッカーの、いやサッカー部の、いや栄光サッカー部の真髓でなくてなんであろうか？

篠さんが約一年間俺達と共にサッカー生活を送り、俺達に教えてくれた物こそこれではないか。若々しさではないか。この若々しさこそ今迄の蹴球部を貢ぬいて来た物であり、東日本第4位を生み、全国大会初出場を生み、昨年の神奈川県征覇を生んだのではないか？

これが俺の篠さんの向に対する解答だ。

今現在の部を見るに、このファ

。。何故君達はサッカーをやるの

か

イトのなさ、気迫のなさ、やる気のなさ。サッカーは熱情の産物だ。

。このまゝでは栄光サッカーは死んでしまう。果してこのサッカー

の尊い精神を殺してよいのであるうか。あの光り輝くタイムを消してしまってよいのであるうか。

(後略)

作者は興奮した所以か、論旨が不明確になりかつ「——に対する解答だ」辺りは文の体型を取つていい。恐らく、作者が気負つて書き始めた。何故サッカーをやるか

に踏み込むべきであったろう。しかし、その二にふれた因黒論的な解決方法の一参考になるであろう。

そして自分には、自分なりの考え方を得た時、君は立派な一団の高校部員となり、サッカーマンとなり得るのだ。全員の気持ちがピタッとそろつた時の勝利が眞の美しい勝利なのだ。

何れの国の人たるかを問わず苦しめ開いた途には勝つべき全る自由なる魂に捧ぐ。

即ち、俺が君に望む事はあいから人間になる事なのだ。サッカーに理解された物ではなかった。途中から最初の論旨と異つて伝統云々の話に移り変つては、作者が本当に疑問の解決を目指したがどうかさえ疑問である。そして中途半端な結論に終つたのは、もう一步には自分なりの考え方を持つ事だ。

ロマン・ローラン

作文

岩淵さん

十期生 市村俊一

「岩淵さん」といえば神奈川県で高校サッカーをやる者は「あああの人か」というだろう。神奈川県蹴球協会の親玉であり、また、現湘南高校の英語教師、中学生の諸君はまだ知らない人が多いかもしれない。色の黒い、でっぷりした体、またするどい目つきが印象的である。ところで、この岩淵さんと僕にも妙な因果関係がある。市村一反則一岩淵、あまり良いものではない。なぜこんな事になつたか、どんなエピソードを紹介してみよう。

「夏季大会」へ中二の頃は、ずっとバックをやっていたのであ

まり目立たなかつた。」中三になるとセンターフォワードがあつたので、風秉坊は、穴うめとしてそに入つた。何しろ無我夢中で試合にのぞんだ。決勝で敗れはしたが、イレブンのファイトで二位になれた。センターをやつたのだが、なれないせいか、素質がないのが、(西方がかもしれない)どうもまくいかない。華やかなはずのジョンがサッパリである。しかしぬけ目のないところ、人一倍の才能にすじ金をさらに入れて、うまく力バーしようと努めた。それが行きすぎだったのか、いつもキーパーが、取る瞬間に足を上げていたのがレフエリーの気にさわったのがレフエリーの気にさわり、試合後、奥根さんへ協会の審判に注意された。

「冬の大会」一回戦、二回

戦は、何事もなくおさまつたが、対一中戦には、奥根さんから様子を聞いていた岩淵さんがレフエリーであつた。相方とも、風にのせたロンダキックの応酬で一对一の凡戦。栄光の反則が意外に多く、試合はエキサイトした。前半二十分頃だったと思う。中のキーパーが「ボロリ」とやつたので、すかさず足をだしたところ、球がキーパーに強く当つてたおれた。自分では、さほど大した事ではないと思ったが、ホイップルが鳴つた。「ヒーッ」「今のは非常にきたない反則です」「ジロウ」(もう一度やれば退場です)さすがの心臓もヒヤリとした。それからというもの、おちおち、せりあいもできなかつた。延長戦で勝越点をあげると、急にファイトが出てきて、

作文

又もや、チヤーシをとられてしまつた。もうその時といつたら、どうなるかと思つて、じつと下を向いていたら、幸な事に退場にはならなかつた。しかししかわいそうな事に試合後、松田が岩淵さんから「栄光のセンターは、きたない所があるから注意するように」と言われたそうだ。それからというもの、岩淵さんと聞くと、どうも虫の好かない気持になつてきた。

「リーグ戦」高校にたつてもそれはまだ続いた。対湘南戦の事である。自分のチームがどれだけやるか観戦に来た。栄光はまつたく押され、湘南が先取点をあげると、「ニコニコ」、ゆうゆうと坐つていた。しかし後半、同点に追いつくや、栄光は調子にのつてきた。援ぶりが、試合をしていてもわかれない。立ち上つての必死の庵が、同点になつてからというものぼくがせり合いをする」と」「ファウル、ファウル」と言つていたそつだ。こんなわけで、岩淵さんがレフェリーをやると、他の選手なら平気な行為をぼくがやると反則になつてしまふ。

市村一反則ー岩淵の関係はまだ当分続きそうだ。

さてこの岩淵さんの事が、記念祭の時に先輩から来たスクラップの中に書いてあつた。読んだ人も多いと思うが。——この記事の最後の一一行を読んで筆者も安心した。「この岩淵さんに、一度はどなられないと将来出世しない。」しかし逆が成立するかどうかは疑問である。

サッカーと僕 とサッカー部

十二期生 佐藤 政

僕がサッカーというものを知ったのは小学校五年の時だつた。それまでは体育の時間にはいつもソフットをやつていて、僕もそれで満足していたから、「よけいなものをするなー」とくらいに思つていたが、まあやつてみた。ところが赤白に分れてやつてみたら、ソフトでは無勝をほこつていた我が白軍、今度は無敗をほこるようになつたんだから、一やんにサッカーが好きになつてしまつた。その時

作文

僕はFWをやった。もと僕は、野球のようにしょっちゅう休めるへ守備が終れば休める（スポーツ）は大して好きではない。それに僕が少しへ大分かもしれない（無鉄砲なので、サッカーのようなアーバレマワルスポーツが性にあうのだろう。

栄光に入つてから、一年の一学期のスポーツ大会にサッカーに出た時は、FWをやってあの広いグラントを縦横無尽にかけまわってやつた。その時は、味方はチビばかりなのに敵はデカアツばつかりだった。それだから、相手は二つちが弱いのをいい事にしてポカスカ（たしか三點）入るのである。それなのに二つちは少しも入られないのでぐやしかつたから相手のにくらしい野郎めがけて、球が

かし、幸いフリー・キックを与えられたのを僕が蹴つとばしたら、ゴールの中に入つてしまつて完敗はまぬがれた。その時は例えようもなく嬉しかつた。負けたけれどもとつても面白がつたので、二学期にもでて又相手とボールを蹴つとばした。そして二年になつたら、今までの文化部の他に運動部にも入れるようになつたので、どこへ入ろうかと色々考えたあげくこのサッカー部に決め、かくして入部したのであつた。

最初の練習は本当につらかつた。何しろスポーツ大会のような軽い気持で行つたら、さんざんにへきなればそんなでもないが、その時はそうだつた（苦しめられてしまつたんだからたまらなかつた）

。しかしこのうちにだん／＼練習にもなれて、部の人とも親しくなり名前もわかつてきたので楽しくなってきた。そして始めはだまつまぬがれた。その時は例えようもなく嬉しかつた。負けたけれどもとつても面白がつたのに、今ではしゃべりながらだつてできるようになつた。

しかし僕は日々なので、時々みんなと一緒に練習できないので、少しつまらないような残念なような気持になる事もある。けれどもいくら苦しい事があつても、この面白いサッカーというスポーツを一生県命やつて、体も心もきたえてゆきたいと思っている。



作文

(坊主(雑感))

十期生中前峻

六月二十八日、栄光は慶應に破れ遂に関東大会出場権を失つた。次の日の朝、林(茂)と電車が一緒だつた。唯野、守ちゃんも一緒にいた。僕は対慶應戦には財政困難と教会の用事で応援に行けなかつた。林は僕にあうなり「オイ、この頭を見てくれよ。帽子を脱がせて見ると、セツカクのばした毛を鮮かにガリガリに刈つてある、守ちゃんは総持寺に行つてそつてもらつたのでテカテカ光つている。皆で負けたら頭を丸める約束をしたのだそうだ。内山さん大泉さん菅つちゃん田代さん、哲つちゃん

さんは元よりだが。僕は皆につきあって笑つていたが、内心度肝をぬかれた。皆の男らしさに、若々しさにだ。一度決めた事を外に表わし、自分でそれを絶えず感じながら新起一転しようという男らしさにだ。所が後で聞いた約束を立ておいて逃げた者がいるという事だ。皆勝つ自信があつたから約束したのだろうが、こういう事を面白半分に決めてはいけない。そういう軽はずみがいるから他人にも先生にもひやかされたり、ちやかされたりするのだ。こういう事は感情に走り、血気にはやつた下らない事だ位に、半分憶つた、大人になつたようなつもりで考える者は、いるかもしねい。しかし

物事を真剣に看え、熱中するのが若人である。それを下らないとかばばかりしいとか、又は全然気にとめないなんていうのは、全くなんと言つていいか、けぬしようのない位の愚の骨頂だ。返つてこの丸めた人達は見習うべきだ。菅つちゃんはすぐ覚悟したし、内山さんのバリカンを入れられる時の態度などは、どことなく聖のような感さえただよつていたそうだ。僕は試合に行かなかつたし、頭も丸めなかつた。だから多少反感を持たれるかもしれないが、思つた事をズバズバ書いた。坊主頭に敬意を表して一言。

若人よ、真剣に、わき目もふらず熱中せよ。

勉強に、スポーツに!!

ぼくのスポーツ歴

部長 東郷 寛

作文

毎週の練習日や夏の合宿に汗にまみれ、真黒になって運動をしている栄光生を見ると、ぼくはよく少年時代のぼくの姿をおもいおこす。

父が度々転任をしたのでぼくは二つの中学校へ行った。だからそれの学校の思い出があるわけだ。だが第一に思い出されるのは一年生から四年生のときまでいた関東州の中学校だ。下級生時代にちょうどベルリンオリンピック大会にいった人たちの主産話が学校であつたりして、大いにスポーツ熱

が鼓吹された。いま考えてみると、かなり国家主義的考え方からで、こととは無関係に体操の時間が多くなつたのには嬉しかつた。(先生がお休みだと大てい外へ出て運動をしてもよかつた。)中学一年生のときは大ていの一年生と同じで、ただ学校の生活に慣れるのが精一杯で何をしたのかほとんどおぼえていない。たゞ覚えている事と言えば、五月の創立記念日の日に相撲大会があり、誰でもみな出なればならなかつたことぐらいだ。小さくて力のないぼくの最も苦手とするものだつた。生れてはじめてフンドシをしめるのに大いに苦労し心配したのはおぼえていない。フンドシで思い出し

たが夏の試験が終ると毎年水泳訓練というのがあつた。午後一時頃に全校生徒が集り、上手下手に従つて分けられているクラスに入り泳ぎの練習をするのである。その時は生徒は白、先生は黒の六尺フンドシをつけていた。栄光の海の合宿とは方針も違つており、長く泳げるようになることに目的がおかれていたようだ。ぼくはどうしたはずみか上級のクラスに入れられたので、アツアアツアアツながらも落伍しないように列に加つていた。いちばんつらかったのは水温が一七度から二二、三度ぐらいいないので、よく足がつることであつた。でも毎年のこの水泳訓練は海に対する親しみを与えてくれたので、今も大いに感謝している。

中二になつた四月、体操の時間

作文

に百米の記録をとった。十四秒前後で走ったので体操の先生から陸上競技部に入ることで、選手になれるといふことでもあったので嬉しい気持で一杯になった。当時、関東州中等学校体育大会というのが六月に開かれていた。この出場者を訓練するための部であり、今の学校のような自主的なすばらしい組織があつたわけでもなく、体操の先生を中心には各学年の生徒がたゞ集つた、部とは名前だけにすぎないようなものだった。なにしろ全校の生徒が五百人くらいしかいなくて、植民地で特別な強い刺戟もなかつたのだから己むを得なかつたのだらう。しかし大会当日は会場へ全校生徒がスラスバンドを先頭に堂々と乗り込み、応援も当時として

は仲々はで、一日を大いに興奮し感激したものだった。試合が終ると陸上競技部は自然に解散、あとは奇跡なものが運動場をぐるぐると走っているだけである。

たいていの者は適当なタルーフに分れてクラス対抗のバレー・ボール、バスケット、ポール、サッカーへ当时よくア式とぼくたちは言つていたの練習にうち兴じていた。しかし基本的な練習もせず、ルールの知識も生半可であった。また栄光では体操部員以外あまり興味を持つていながら、鉄棒は休み時間によくやつた運動である。中二のとき、蹴上りができるようになるまで何度も皮がむけたことだらう。今でもぼくの手のひらがゴツゴツしているのは当時の

は仲々はで、一日を大いになつたのはこのおかげだと思う。やがて秋になり運動会もすみ、冬が近づいてくる。十月十七日に神嘗祭という祭日があった。この日にはこの地方の学校対抗のマラソンレースが行われた。オーバーをはじめて着て、割りあてられた場所へ行って母校の選手の応援をするのである。中国は寒さがくるのが早い。この頃から生徒達は、寒さのぎに盛んに走るようになる。放課後にもよく長距離のレースが全校であつた。これには度々十分以内に入り今でも賞状を失くさずに持つている。

そのうちに軽い服装では外に出られなくなつてくると、ストのシーズンである。内地とは違つて屋外の広々とした池に氷が張るのだから、スピード競走用の長い

作文

スケート（ぼくたちはロンダと呼んでいた）をはいた。スケートは十二月は試験で忙しいので、冬休みの主な楽しみとなるわけだ。朝起きるや、寒暖計を見て今日の氷の張り具合はきっといいやと思ひながら、スケートを肩にリンクに走って行く気持は湘南地方では味わえないものだ。三学期に入ると一月中は体操がなくなり武道や教練の時間も少くなるが時間割が特別に組まれ各学年毎にスケートに行くのである。こうなるとスケートに行く楽しみよりも授業がなくなるということに無上の喜びを感じるのであつた。

なんだかとりとめもなく書いてくるうちに、ぼくの中学生時代のことを説明するのがとても嬉しいことがわかっ

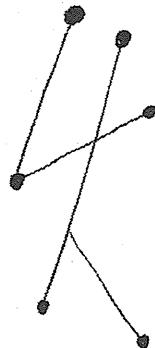
てきた。環境や社会状勢、がすいぶん違っているからである。でも一般にいって、今の人たちはぼくの学校時代よりも比較にならないほど、自分たちの力で立派な組織を作り、雨が降ろうが、風が吹こうが終始一貫計画に従つて真けんにやつているようだ。ぼくたちは季節に好きなことを勝手にやつていただけのようと思う。たゞ、ぼくとしては春夏秋冬手近かに多くのスポーツに親しむことができたのはなによりの幸だつたと思つてゐる。

（終）

オレはG隊に襲れた

成宮隆夫君談

「オレはあまり帰りが遅かつたのであるG隊の一人にやられる所であつた。『YOH』金持つてるか』短刀をつけられて言われたのである。生れて初めてこんな目にあつた。又鎌倉はおつかない所だなと思つた。そしてタレン隊の者でも英語を知つていたので驚いた。しかし後で考えて見たら、ジャズの本を読んでいるからだとすぐわかつた。オレはWANT to LIVEだったが助かつた。お金も取られなかつた。Gたいの野郎は逃げていつてしまつた。」



県下中学校選手権大会

VII 月 XII 月

一期生

於湘南高校

北村雷治

第一回 戰 市場中

於湘南高夕

EIKO
1
| O
| |
2 O
2
ICHIBA

栄光はジャンケンに勝つたため太陽と風を背後に陣取つた。だがら栄光は前半有利であつたはずだつたが。2時レフエリーのホイツスルが鳴つた。さあ試合開始だ。

市場中のキックオフによつて試合は開始された。キックオフ直後ボーレルはすぐ前に蹴り出されるだろうと思つていたら、後にバスをしてそこでセンターハーフが出て来て大きく蹴つた。味な直似をしやがる、まあそんなことはどうでもよい。

前半栄光はよく攻め素晴らしいファイトで相手市場中を圧倒した。

……と言いたいが、残念ながらそ
れはもう過去の夢と化してしまつ
ている。それでも栄光は何度も攻
めボールを敵ゴール付近まで進め
た。しかしゴール前のあと一歩と
いう処での最後の決めがなく得点
と結びつかない。又フォワーゞも
バックスもよく結ばれておらずチ
グハグなフレーであつた。0-0
の均衡を保ちながち前半終了。後
半は栄光風下に陣取つたせいかペ
ースが乱れ、始めから攻められ再
三栄光ゴールのそばにボールが飛
ふ、その上バックスのマークも粗
常にあいまいで、又空振りも続出
（特にJリーグ試合必ず空振りを
する）全くヒヤ／＼する。

だけですぐ取られ、蹴り返されてしまふ。しかしだん／＼栄光にもチャンスが現われてきた。そして遂に刈がシュートしたボールが敵バックに当たり、ゴール左ポールそばに飛び込んだ。(江別が奥っ込んだ様だったが、彼が奥っ込んだ時にはすでにショートされたボールはネットに触れていた。--江別の話) 一点点入ったのだ。感激した。実に二の時はうれしかつた。後で聞いたのだが、我等の哲ちゃんも飛び上つて喜んだ。そうだ。しかしその喜びもつかの間に栄光は気のゆるみからかバックスが敵にあつけないシートをされ、一点与えてしまつた。リードしていたのもホンの少しですぐタイとされてしまつた。残念だった。その後五分の攻防を続けたが、又敵に一点与えて

まう。しかしだん／＼栄光にもチャンスも度々あつたが、結局最後の決戦が無く得点できない。必死攻撃したが遂に及ばず、ピリピリー、レフエリーのハイスクルが高らかに鳴つた。僕はそれをうらめしく思つたが、時すでに遅くタイムアップ。負けた！負けたのだ！

しまつた。逆転されたのだ。もう

いな点

残り時間も少い。最後だと思ひ栄

。スローインをすぐ受けるべく

全力をあげて攻防に努め、チャ

。ゴール前の最後の決め

ンスも度々あつたが、結局最後の決

等々があげられ、結局練習で体力

めが無く得点できない。必死攻撃

を養い、ファイトを出すといふ事

したが遂に及ばず、ピリピリー、レ

になつた。今後の我々の前にある

フエリーのハイスクルが高らかに

ものは冬の県大会のみである。冬

の県大会を目指してがん張ろう。

の時はうれしかつた。後で聞いた

。県大会を目指してがん張ろう。

反省会において

しかし負けたからと言つて、クロ／＼しても仕方がない。我々は奮起すべしだ。

メンバーリスト

一木久藤島坂藤村田宮測山
大後田宮伊北多成江葉

GKBBLRCHHWRFCLLW

エイコーサツカ一

。ファイト、ダッシュの不足

。中盤ががら空きになり、中継

がなかつた。

。バックスのマークのあいま

中学校練習試合

＝中三の日記より＝

初試合対尼瀬中学

五月十六日(於栄光)

「エーッ」とホイッスルがグラウンドにひびきわたつた。「よかつたなあ。」「おめでとう。」「やあ、よくやつた。」「ありがとう。」みんなみんな喜びに満ちたどろだらけの顔を見あわせて、もうどうしていいのかわからぬといつた表情である。

我々は勝つたのだ。我々、栄光学園中学三年サッカーチームは、ここに最初の对外親善試合を勝ちとつたのである。このうれしさ、どんなに言い表わそうとしても、実際に味わつたことのない者には通じないであろう。眞のサッカー

マンだけが知るうれしさ、感激である。

ではここで我々中三サッカーチームの今日、一日をふり返つてみよう。

朝から降り続いていた雨も曇にはほとんどやんだ。僕たちは、いつものように三々五々部室に集まり、外の方をにらみながら、したくをした。みんな今日の尼瀬中学との試合の方が気になつて、おちつかない様子。一時半頃から練習を始めた。試合開始は三時の予定だったから、練習時間は充分あつた。コーチはフランク先生と高一の松田さん。いつものように体

ラウンドコンティショニングは悪い。時おりバラバラと小雨が落ちてくるしまつ。みな空を気にしている。あまりファイトがわからない。その後に三時になつた。尼瀬の連中どうしたんだろう。ちょうどその時、誰かが叫んだ「おうい来たさ！」見ると校門の方から黒い学生服を着た彼等が歩いて来るのが見えた。みんな一せいに手をかつたり大声あげたりした。「二んにちわ。」「いらっしゃい。」などとあいさつをかわすと彼らは先生(フランク氏)と松田さんの案内で着換えに行つた。みんながぜんはりきつた。もう一度練習の総仕上げに入つた。彼等もユニホームを着て出てきて、練習を始めた。こんどは皆ファイトを出したへといつてもさつきと比べていくらか

張り切ったというところか？」みんな彼等を見て「大きいなあ。」「小さいよ」とか「あいつ等のサイドみんな上のぜ。」などとさわがしい。中には「おい、練習の時ぐらいパンパンけってやろうぜ。」「あらを見せるなよ。」などとふざけてやっている。片瀬チームがランニングの時、タラウンドに注意して、よく調べていたのが印象に残った。僕たちも、他のタラウンドで試合をする時にも調べて、自分がどのようにスレーをした

は北村がジャンケン。北村が見事に負けてヘパア」「わあ負けたああ」と非鳴をあげたので一同「わあ」とわく、ここで緊張がちよつとほぐれたかこうになつた。「あらを見せるなよ。」などと片瀬は陣地を取つたため、片瀬のキックオフで始まつた。(一)栄光は海の方へ攻めることになつた、(二)栄光はボールをよくキープし有利に試合を展開した。だが、ゴール前、もう一步というところでオフサイドを三度もとられたり、自ら一歩よいか(特に今日のようにタラウンドがぬかつている時)知る必要があると思つた。

三時四十分、いよいよ試合開始、両軍必勝のいきごみで整列、フレー山井さんから注意をうけた後、両軍キャプテン片瀬はRI栄光は北村がジャンケン。北村が見事に負けてヘパア」「わあ負けたああ」と非鳴をあげたので一同「わあ」とわく、ここで緊張がちよつとほぐれたかこうになつた。」と云つた時なども、もうすこしと試合は片瀬が陣地を取つたため、片瀬のキックオフで始まつた。(一)栄光は海の方へ攻めることになつた、(二)栄光はボールをよくキープし有利に試合を展開した。だが、ゴール前、もう一步といふところでオフサイドを三度もとられたり、自ら一歩よいか(特に今日のようにタラウンドがぬかつている時)知る必要があると思つた。

インナーからウイングへとよく攻めてくるがラインを割つたりキーパーに取られたりしてよういに得点とはならなかつた。栄光もよく声を出していたが、フォワードのコンビがよくなく、おしいところでチャンスをつぶしていた。二度のオフサイド田島からのコーナーキックをエンドの多田がヘッティンクした時なども、もうすこしと

ペラント先生も太木先生もじりじしゃつて元氣づけて下さった。(後藤典彦)

後半

片瀬のキックオフで後半が始まる

。いきなり向うのバスの急襲で栄光のバツクのコンビミだれる。大きな声を出しても答える者が少ない。ゴール寸前まで持つてこられたがゴールキーパー鎌木のいつも見られないほどのもうれつなファイトで得点されない。

二、三度バスの急襲をやられるがそのたびGKよくがんばる。後半のよくらいの所でバスの急襲はやみ前半のように栄光ややおしきみ、後半かわった「H石川」B河原ともに新人でまだよく蹴れずに、それでも敵のバスをよくつぶす。とうとう、後半あとのこり五分といわれる頃に

ツクに当り入らない。そのボール

ゴール前でキーパーがまだとらないうちに北村つっこんでナイスシュー

ート、キバーの手とどかずきれいにゴールに入る。思わずとび上づて拍手。一点入れれば勝てると思つたこの試合、大望の点をば入れ

そうろう。あとまた栄光ファイトをだして攻防。ピー、とうとう試

合終了。並ぶ。山井さんが「1-0で栄光の勝」といった時の皆の顔。ニコニコで自然ランニンタにも力が入る。みんなドロンコのま

ま守真を取つた。(宮坂研一)

。今日は、朝から曇りで今にも雨がふりそうだつた。一中全員(二、三人の未なかつた者を除く)がそろつたのは十一時過ぎであつた。GKの佐藤が、少しおくれてやつて来たので非常に心配した。試合は予定よりおくれて、一時ごろ、栄光のキックオフで開始された。立上り栄光右より攻めたが、じきに蹴りもどされ一進一退のありさまだつたがハーフタイム十分位前から一中は突然栄光陣内深く攻め込み三十分ごろKJへ中二らしい)が左すみに決めた。その後そのまゝ(一進一退)のうちにハーフタイムとなつた。(どうもこのクラウンドはせまいようだ)後半、栄光依然として得点出来ぬまま時間がたち、タイムアップ。五分前あたりから非常にファイトを燃やし

湘南地区三校リーグ戦

六月二十一日(於藤沢中)

「H葉山シユート、それも敵のバ

中のクラウンドで決行の日が来た

。今までの試合は、敵のGKが必ず

て攻めたてたが得点出来ず、ついに終った。栄光敗れたりノタイムアンスの筈が何と無情に聞こえたことか。皆ぼう然として、声もなかつた。

(吉川威)

第二試合対片瀬中学

ぼくら栄光は今日片瀬と試合があることを知らなかつた。何でも一中と栄光と片瀬でリーグ戦をやることになつたのだそうだ。何でも戦で力を出し切つた感じである。片瀬と一中は四一〇で片瀬が勝つたそで、やだんがならぬ。

こちらのキックオフで始まる。五月にやつた試合の後半の速攻のように始まってすぐに一点入れられ、あつた。皆ぼう然として、声もな

クはマークが不完全だしフォワードは球をたもつことができない。後藤も大久保も吉川もものすごいしょぼいキックをする。ハラハラする。キーパー佐藤なかなかがんばるがまだ練習がたりない。ハーフタイム直前に二点入れられる。後半もおされる。しょぼいキックはなおさらしょぼくなり力が出てこない。向うのフォワードは五人ならんだまゝ攻めてくる。ワーワービとなりちらした。片瀬はものすごい元気で時々栄光をばかにするような言葉をかける。しかたがない体力の差である。ものすごくやらしい。しかしあされると三点いれられ。タイムアツアツの試合で感じた」とは一中も片瀬もフォワードのペースがするどいことである。サイドなどでパス

GK	佐藤
RB	大久保
LB	後藤
RH	田島
CH	雪坂
LH	吉川
RW	北村
RI	江渕
CF	榎本
LI	多田
LW	葉山

せずインステップでバシッとパスをする。そして全体にタッシュがきく。栄光にもあるくらいのパスがほしい。フォワードは皆球の保持ができなかつた。又バックスはマークが不完全でみまわすと片瀬のユニフォームばかりという時が少なくなかった。それでもつとおちつくことが大切である。又試合の途中北村がタッショしてもうすこしで入る所すべつてころんだがあの時すぐ立てば入つたかもしれない。とにかく練習が必要である。又仲よくすべきだ。(宮坂研二)

無舛えフェニックス

— 中3の部 田代に —

副主将 田畠哲也

二者は又二つに
分れる
一は歡喜を秘め
又一は悲しみを
秘めながら。

希望せよ隣れなる魂

湿ったグランドのゴールライ

希望をかけよ勇ましかれ／

ンが鮮やかだ。

待てよたゞ待てよかし。

美しの喜びの太陽を

試合後のランニングの足取り

やがて汝は見るならん。

も重い。

起てよ振ひ起てよかし／

「栄光最後までガンバロー！」

悲哀を懸念を捨てされ／

声が返ってくる。

心を乱じ悲しむるものを

一日二試合、そして二連敗は彼等

沙が許より去らしめよ。

の顔に憔悴した隈を作った。

片中と一瞬交叉する彼等の奥

「敗れたんだ俺達は」

新しいユニフォームが

彼等の目がそう語っていた。

六月の雨は音もなく降り

二コリと笑って「アリガトウ

ゴザイマス」

冷たくシャツをぬらし、肌を
ぬらす

互いに掛け合う声の内に勝者

に対する拍手がわく。

あまりに遅かった彼等のスタート
は、一中に对する0-1の、片中
に対する0-1の敗戦を生んだ。
練習らしい練習もせぬまま中止に

なつた彼等は、勝利の感激も、サッカートのまばらしさも、練習の樂しさも知らない。

彼等は全てに忘れた存在であつた。余りにも大きい断層は埋められぬまま、いやその努力もされぬまま、繰り上つて来た。そして彼等は中三となつたのだ。

GKの逆をうくシュートが決り同県大会の一回戦対市場中であつた。逆転された。

十期生には堅い団結があつた。彼らにはそれがない。

九期生には素晴らしい経験があつた。

等にはそれがない。

更にロングショートが一本。

何か大きな疲労を感じながら電車のシートから立上つた俺はフ

ト思つた。「三連敗だな」と。外はもう暗かつた。

中ろに

余りにも暑い日毎の午後であつた。昨日までの定期試験のためか二週間出来なかつた練習のためか栄光の動きは鈍い。何か全てがチクハクだ。

十期生の団結は県大会準優勝を産んだ。

一昨年現K2の俺達、当時の中九期生の闘志は県大会準優勝を産んだ。

ころまさに驚異的な勝利をとげた。二十一連勝という余りにも華やかだつた八期生の影にかくれた俺達はどう「弱い事」を自他ともに許さない。

夏の大会決勝敗退から始まつた十分した中ろであった。その俺達は一期生の危機は半年で終り、4-1-0回戦3-1-0、二回戦4-1-0準決勝4-1-0そして決勝兼権。県第ニ二週間で終つた。

果して彼等十一期生の当面している危機は簡単に終り得るだろうか

しかし、その勝利は決して一日に得られたわけではない。そこに隠さ

れた六ヶ月間の苦しい練習があつたのだ。出来ようが出来まいがそんな事は知つた事ではない。とにかく全力を尽してやるんだ。目標に向い前進するのだ。練習／＼、俺達の前に練習の二季しかなかつた。

俺達が中2の当時、俺達が県征覇をし得る等と夢想だにした者はあらまい。それ程俺達は能力が劣つていたのだ。しかし、そのハンティを乗り起えた勝利を握つた。

「練習／＼で氣き上げられた力を思ふ存分發揮し、試合ではすんずん勝進む。そして最後の殷で突き落される。又立ち上るそして勝利をなし遂げる。そこには力強い征服欲しかない。名譽も何もない。そんなものはめんどうだ。どんな打撃に対しても

ひるまことに征服する事、それこそスポーツの真髄であるはずだ。」—— D A S H 2 号より——
一先輩は君等に対し言つう。「彼等はスタートが少し遅れたにすぎない。まだ先はある。しかし負けたと云ふ事は何かで相手に劣つっていたという事だ。」

そうだ。君達は片中に較べ、十期生に較べたスタートが遅れたにすぎないのだ。練習量が違うにすぎないのだ。君達も県の霸權を握り得るのだ。しかしその前に練習だ、練習があるのみだ。

相手も同じ中学生であり、同じ十四才の少年なのだ。君達が驚異した片中もそのプレイヤーは中ろで立てる。声をだし、そして霸權を奪い返すのだ。

中天に高く舞え
フェニックスの胸に不可能と

蹴球部展を願て

経過報生口

ある。決まった事は、

創立十二周年記念祭に際し、我が蹴球部でも何かやろうではないかと云う声が起つたのは五月上旬で

あった。始めは責任者とK.I.が中心になって行うと云う事が決まつただけで、具体的な案は何も出ていなかつた。そのうち一部の者から写真展をやつたらどうかと云う意見がでてきた。しかし、その意見と言つても意図する事は、単なるPRに過ぎなかつた。そして、五月もだん／＼押しつまつて来て

心になつて行うと云う事が決まつた。

ただけで、具体的な案は何も出ていなかつた。そのうち一部の者から

写真と新聞の切抜きなどのスクランブルを中心とし、蹴球部創立からの力強い歩みを追つて行ってく。

同時に、肩苦しい物にならないよう、傑作な写真を集めたり蹴球に関する諸々の物を展示する。

この線に沿つて行うべく、高校部員の奮闘が連日六時、七時までも続いた。練習に疲れた体を鞭打つて頑張つたのだった。かくして、私達の意図した事は、「蹴球部七年の歩み」として出来上つたのである。(展示会責任者)

九期生内山正樹)
班に分れK.I.も使って具体的な仕事を取りかかった。しかし始めて見ると、若々しい力強い歩みを追つて行くと言つても、兎角PRになりがちだつた。これを救つてくれたのが泉頭さんの、沈滯している栄光のクラブ活動にアピールするような物をつくれ、と言うアドバイスだつた。最後の二週間は、

班に分れK.I.も使って具体的な仕事を取りかかった。しかし始めて見ると、若々しい力強い歩みを追つて行くと言つても、兎角PRになりがちだつた。これを救つてくれたのが泉頭さんの、沈滯している栄光のクラブ活動にアピールするような物をつくれ、と言うアドバイスだつた。最後の二週間は、班に分れK.I.も使って具体的な仕事を取りかかった。しかし始めて見ると、若々しい力強い歩みを追つて行くと言つても、兎角PRになりがちだつた。これを救つてくれたのが泉頭さんの、沈滯している栄光のクラブ活動にアピールするような物をつくれ、と言うアドバイスだつた。最後の二週間は、班に分れK.I.も使って具体的な仕事を取りかかった。しかし始めて見ると、若々しい力強い歩みを追つて行くと言つても、兎角PRになりがちだつた。これを救つてくれたのが泉頭さんの、沈滯している栄光のクラブ活動にアピールするような物をつくれ、と言うアドバイスだつた。最後の二週間は、

た一部の文章を載せておく。

。「無いものに対する憧憬と情熱。それを得ようとする意志を持たぬ者は死者に等しく、死者の周囲は不可能の壁である。」

五号を発刊したサッカーモ

鹿誌「DASH」の一節である。

サッカーモの真髓それは若々しさなのだ。苦しくても辛くても眞の勝利を目指して突進する。

そこに厳しい練習と大きな充実感と深い友情が生ずる。サッカーモの背骨、創立の頃から現在中止の十二期生に至るまで通つてゐる背骨、それが若々しさなのである。

毎週二回の練習日で毎週三倍近い練習量を持つ他校と戦つて勝利を得るには、練習を大事に

しなければならない。烈しい練習はそこから生じる。そして少ない練習で他校に勝たねばならぬ。そこに練習、試合における苦々しいさまじいばかりのファイトが生ずるのだ。これがサッカーモの歴史である。

堅く結ばれた團結と烈しい練習によつて蹴球部は前進する。若々しき若人の集う所、眞の若人の集う所

我々の蹴球部を皆さんに紹介しよう。

中学高校とも神奈川県に君臨する隆盛の期を迎えた今日、創立の零の点に帰つて長い日々の精神がこもる時、勝利は感激として情熱として発露する。成績は充実した青春の一コマとして永久に記憶される。

未完成な者なるが故に

決して止まる事を知らず

見えず誰も知らぬ者

ひたすら上に上に頭をもたげ

卷之三

絶えず高きへあこがれよ

王者への道はそう遠くはない
だろう。

EVER ONWARD /

O — O — O

う。
次に、先輩諸兄より寄せられた
感想のうち、一部掲載しておこ

三期生 穀原正美

トクさんへ（泉頭さん）から話に
聞いてはいたが、あれ程とは知ら
なかつた。僕達も大学で展览会を

やつた事があるが、二れを成功させることは、人々の敵意的な働きや

創造力が一体とならなければ出来

いた事を、二、三挙げておく。

卷之二

。色をうまく使うべきだと思う。

○人の流れ、照明方法にも工夫があつて良い。

此頃の人間は、エパートなどの展

覧会を見て いるから 目が そろ 低く

はない。いい意味での商売気を出

さないといけない。

大体二の様な意見が多かつたが、

少數意見として、大事な医療大会

手遊びでかえでいたのなかで、あれだけの力を練習の方面に向けるべきだつた」と云う意見も出てゐる事を記しておく。

他校紹介

県立横浜緑ヶ丘高校

九期生(中卒) 吉田 正博

本校の蹴球部の歴史は、私が知っている限りでは、あまり派手な活躍を見せていないので、いざ、この記事を書くとなると、何を書いてよいのか、頭に浮んでこない様なわけである。しかし、戦前の「県立第三中学」時代の我が部はその名を県内はもちろん、全國にもしばしばとどろかせていた。それで、時々練習に出席する、大先輩の方々の自慢話を

ちよくちよく聞かされるわけである。でも、その名が「県立緑ヶ丘高校」と変つてからは、御承知の通り、余りパツとした力を出す事なく、今日に至つているわけである。

さて、この辺で現在の本校の蹴球部について述べてみよう。まず部員数は、三年生は五名（その中でかかさず練習に出て来ているのが三名）三年生が六名、一年生が六名、計いつも練習に出るのは十五名、とまつたくお決しい話で、栄光の様に、練習の合間に紅白試合が出来る様な学校は、本当に羨ましいと思わずにはいられません。と言つても、本校では、一クラスの中で運動部に入つてゐる者が十五名といひないので、これも仕方がない話です。練習日は、一週四日（月曜日、水曜日、金曜日、土曜日）で、その日には、学校の近所の先輩連中が、必ずしも顔を出してくるので、我々現役の者にとつては、何よりの楽しみである。今年は、関東大会の予

送の事は考へず、一学期の初めから夏休みに入る迄、一年生と一緒にみつちり基本練習であるところの、サイドキック、インステップ、キック、トラッピング、ヘッディング、アタック等を行い、それ等を個人で完全にマスターして進んだ。この様にして、七月二十一日から一週間の合宿に入ったわけである。

では、我々の合宿の一日のスケジュールを記しておいてみよう。まず五時四十五分

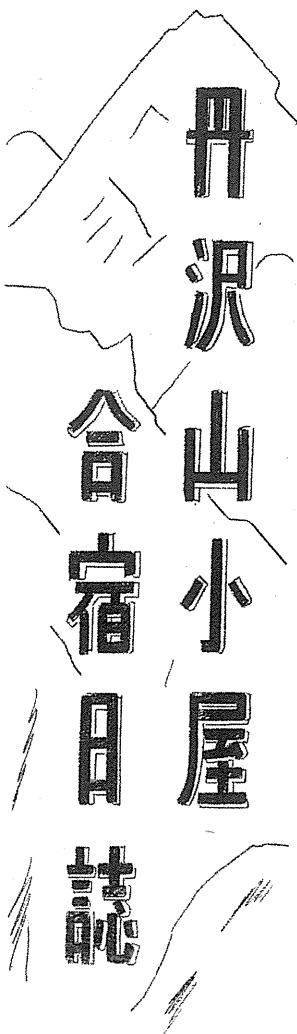
起床、六時より約六キロのロードワーク、帰校して牛乳を飲み、七時より練習開始。前にも述べた様に、個人アレーは合宿に入る前に各自身につけておいたので、主にコンビネーションを多くやり、チームワークをとる事に力を入れた。その練習を九時に終らせ、後三十分間は柔軟な体操をし、その後やつと朝の食事にありつけるわけである。こればっかりは、栄光と異って、女生徒が全部やってくれる。こういう点が、男女共学の良い点かもしれない。午後は、三時から練習を始め、向に

小休止を含め、七時まで汗を流すわけである。

現在は国体予選を前にして、なんとか全員やれるところをやろうと云う合言葉で、練習にはげんでいるところである。この予選では、又栄光とアロソクが違うため、お互に決勝立進まねば顔を合わせる事が出来ないが、我々は一戦一戦体あたりがつかっていくつもりだ。お互に顔を合わせる事が出来る様に、頑張らうではないか。

最後に我が部は、毎年近くにあるセントショセフカレッジと定期戦を行っているが、栄光とも一年に一度でも試合が出来れば何よりも思っています。

では、これから貴校と、皆様の御健康を祈りながら、筆を置きます。



期生 = 藏芳 博幸一
九永 則誠和俊典
林内山 畑哲也
田佐藤 泰二
大前原 飯田茂樹
石飯田 田代雄司
菅沼 大泉

私達九期生一同は十二名そろつて八月一日から四泊五日の丹沢合宿に参加した。同じ時に行つた者の中三分の一以上が蹴球部員とあつて、さながら蹴球部の合宿であつた。そこで、皆さんに私達九期生の一致団結しての活躍振りを、山小屋で書いた日誌から紹介しよう。

ぞ」と騒いでいたら、スピーカーで「栄光学園の内山さんは少し遅れます」

平塚に着いて切符の精算をしていける間に、田畠石原達を乗せたバスは出でしまつた。それで僕と菅沢、山田代と他の五六人は次の急行バスまで二〇分位待つた。誰かがこの急行は前のバスを超越すと云つたので得意になつていた。ところが追抜くどころぢやない、大秦野に着く途中で蓑毛行きのバスとすれちがつたら、そのバスの中から田

畠が手を振つていた。大秦野で二〇分位待つて、ようやく蓑毛に着いた。着いたのはいゝが頭がぐらぐらして來た。それでも無理して青木先生の後から登つて行つた。トニマ氏は僕達より十分位先に登つたが、途中知らぬ間に抜いていた。どこかで晩のみぞするのおかずでもさがして行つたのだろう山小屋に一番先に着いたのが山田佐藤田

8月1日(土) 晴
キヤンブ オ一日

大船駅について「内山がいないうちがつたら、そのバスの中から田の西廻をかついでいたので一番ま

いつたらしかった。山小屋に着いて休もうとしたら飯を食べてからまき捨いときた。二時からだから飯を食べてから一時間ばかり時間があると思つたら、サマー・タイムとやらで時計を一時間進める事になつた。カツクンときた。

頭がガンガン痛みだったので、途中から田畠と二人で大きい木を引きずつておりて来て、すぐ横になつて寝てしまつた。三十分位寝て目を覚すと菅沢が帰つて来た。僕達と大体一時間位の差があつた。それから晩飯までアラアラコロコロしてゐた。頭痛は前よりも激しくなつて来て、立つてゐる事が出来なくなつた。晩飯のスープがシバでは食えない代物ときて、スプーンに二、三杯でいやになつて

しまつた。しかし大前の食う事、作つてもらつた。泪し明日はさつ見ていてこっちが気持悪くなつてそく飯当番だつた。寝る場所は来た。普段のオレなら田畠位と十分対抗出来たのに全く残念だつた。くやしくてくやしくて涙が出て来た。嘘！

晩飯が終ると又横になつてしまい、熱も出て來たので青木先生にアスピリンをもらつて飲んだ。目が覚めるとランプが灯されていたが人影が見えず、ただ川の音が聞えるばかりだつた。しかし、しばらぐするとモリチベン得意のワレハラ

する。それから晩飯までアラアラコロコロしてモリチベン得意のワレハラを澄まして聞いていたが、大前

の声は聞えなかつた。

山の合宿参加者三〇名中サッカーチーム員が十二人をしめていた。それでサッカーチームだけで一つの班を

FWとGKの六人が下、バックスの六人が上と決つた。FWで一番ねぞうの悪い山田がオレと林の間に寝る事になつた。一つの布団にオレと山田が寝るとは何の因果か知らねえがと云いたくなつた。寝る前にもう一度アスピリンを飲んで寝る事にした。一人に対し二つの毛布だが、明け方近く寒いので二枚便おうとしたところ、どうしても夜置いた場所にない。朝起きた菅沢が「オレ三枚毛布使つて

らあ」

（大泉）

マキ取りに大前飯田山田等と一緒に出掛けた。塔ヶ岳への途中の道を半時間程登つた所で拾つた。マキは大して見当らなかつたが、

探したので持つて帰るのに苦労した。ともかく大前が、へどとミミスにおびをながらも一人で懸命に探しめたのだから。山田が木を適当に折って、沢山まとめて引きずつていったので、僕も同じ様にして多くの木を引きずつて行った。途中で、田代がやはりマキを引きずっていたが、張り切つて走つたので谷に全部落してしまった。幸いな事に木に引っ掛けられて取れる事は取れたが、大分谷に落ちて取れなくなってしまった。そこから、僕はふとばして小屋まで来るうちに、運んでいた木は各位に減つてしまつた。大前、飯田等は僕に遅れる事約三十分、結局田畠大泉に遅れる事一時間三十分である。彼等の健闘は素晴しかつた。大泉はその故か? 飯を全々食えずになげ

う事食う事、驚くばかり、あれよあれよといふうちに五六杯食つてしまつた。やはり、飯の量は社事の量に比例する。(菅波)

8月2日(日) 晴
サッカーチームがオーバーなので、朝六時(夏時間)皆と一緒に起きてすぐ食事当番。日曜なのでミサがさしてしまつた。ヨミは昼寝中の内山の前へ出したそりだが、内山気がつかずねずみ一匹でござり。

さて、山へ登つた僕達の方は、まず昨日マキ取りに行つた所から長尾尾根に出た。長尾尾根の長い事、山の中をだらくくくく暑い小屋へ、大泉を除いた八人は、とあって、木が飲めない。一時間ベニベン沢—三ノ塔—ヨモギ平—沢へ降りるまで五時間位木がない。先頭は青木先生でしんがりは井ノ壁、井ノ壁の前を菅ちゃんと僕が歩いた。暑いのでみんなフウフ

「言ひながら登つた。誰が」「

「次登り」

アイト」と言うと、井ノ健だけは「イヤーダヨ」二つ迄まで気が抜けてしまつた。やつと長尾尾根をぬけて表尾根へ出た。ここで始めて

ケヤキ沢とヤケン沢の合流点まで
林道を通つていつた。ここからフ
ラシにはさくえ沢登りを始めた。
ヤケン沢を五、六。。。メートルい
くとヤケン沢の下にある。この

小屋を出て二時間余り、木筒の半分位を一息に飲んだ。水を飲んでもう汗は出なかつた。三の塔で

左側にベンハーベン沢の下」がある。
ここにはまいった。途中で水はね
くなつて来て、四六のガマなどが

シベニ澤を登って来た連中と申
荒してナマキが生い。トトヤマ

に登った。F3で牛はすぐ近くにいた。F2はかれていたので簡単

で待望の氷を腹一杯飲んで、三時過ぎ小屋へ帰って来た。帰って来てから、僕が持つてきて飯田がかけて上った西瓜を食べた。晩飯

ある。二の二つはザイルを使って登った。ザイルを使うと、沢登りをしているな」と云う感じがする。F5はかれていた。F6はショ

「ルタ！」
F7はがれていた。
F

ハヤシライスを飯盒に一パレと飯

6で田代は天狗さんの頭の上で坐

を二ヶ月前で食われていやになってしまった

でしまた。天狗さん曰く「オモがつたが、やわらかがつたよ」

今度はガレ場。岩が落ちたらすぐ

止めないと、スンゴイ速さになつて大ヶガをするそだ。僕は天狗の機を歩いたから小さい岩がコロコロ落ちて来た。岩が細くなつてくると、四本の足でカモシカのまねをして歩いた。後はササククリをした。途中のがし場で丹沢の天竺記念物のフジアザミがあつた。これは高山植物だそだ。

三ノ塔で昼食。佐藤と田代は弁当のおかずを忘れた。蹴球部にもこんな奴がいます。後、尾根歩きの連中と会流して小シバ沢を下り、タライゴ沢に出て小屋に帰つた。

（佐藤）

「チンデン」

あゝ残念なり。今年こそ沢登りが出来ると、楽しみにやへてきたのに中途で引返すとは全く残念な

1)

な
つ
た
る

連中七人と共に八時に出発し、小屋の上を通っている林道に出た。先頭は天狗サン。大前は毛皮のしりあてをして張り切って天狗サンと並んで歩く。一小時間程歩くと、靴をワラジにはきかれる〇の出舍なる所へ着いた。ワラジ達はぎ瀝水式を済ませた所に天狗御大がやつて来た。「内山平氣か」(僕は風を引いていて気分が悪く、昨日遅れてやつて来た)別に何でもないので「大大夫です」と答えると、御大額に手を当てて「少し熱がある」ときた。そして菊野さんと相談の結果、小屋へ戻れとの命令が下った。自分では別に何でもないのにメイ医に熱があると診断を下され、甚だ不本意ではあったが、やむを得ず元来た道を引返す事と

小屋に着くと大泉が日記を書いていた。なかなか感心と思つてみると、今度は三階に上つて行つて何やら二そごそやり始めた。誰ぞの所に何があることさんに放送している。僕はエライがら何も矢張りしなかつたが、大泉スミはさかんにもぐもぐやつていた。そろ二うしている中に、トウマ氏が掃除をするから手伝えと言つて来た。部屋でもやるのがと思つたら、小屋の前をやると云う事だ。これから泥運び（名目は「み運び」）等二時間はたっぷりやらされた。昼飯時になつてやつと解放された。トウマ氏曰く「又後でやつてもらいましょう」昼飯は一人幽詰一個ずつ。大泉は持つていなかつたが、ド

ナタが大変オエライ方がイラッ
ペツテ一函おいていって下さり、
僕が大前と分ける事になつて、いた
のを持つていたので、一人一函と
なつた次第。実は皆と分れる時、
大前の昼飯のおかすが無くなると
氣づいていたのだが、たまには大
前にもひもじい思いをさせてやれ
と思って黙つていた。後で聞いた
所によると、大前いろ／＼な所が
らもらい歩いたそうだ。アーレ愉快
愉快。昼飯終了後は僕は二時間は
かり昼寝をした。ところが、とこ
ろがである。大木ズミ君はその間
に桃を初めいろいろな物をがじつ
たのである。僕がオメザメになつ
た時はもう満足そうなツラをして
布団を囲にして寝ていた。木ズミ
もアブは恐いらしい。

つて來た。帰つて來た。今日のチ
シデニは僕には作業と昼寝だけで
終つてしまつた。(内山)

8月3日

ヤンフ
オ三日

今日のコースは、小屋—長尾尾根—表尾根—塔ヶ岳—丹沢山—三ツ峠—高旗山—塩水川—小屋。とにかく地図を見たらそうとうありそなうなので、これはふたばるかなと思つていていたがどうやら帰つて来た。出発が八時で着いたのが五時ちょうど前だから、九時間も歩いたわけだ。こんなに歩いたのは初めてだ。皆も大抵せうらしい。それにもかかわらず蹴球部は元気の良い所をみせた。八時間以上も歩き続けた後で、中山、佐藤林音沢

田畠それに僕の六名は塩水川からラニニンゲで小屋まで帰って来た。高旗山を下つてから皆急に元気が出で自然に走りだした。しんがりだった蹴球部員が先頭に追いついたところ、天狗さんが「この後この林道をずっと行きさえすればよいから、先に行きたいなら行つてもいい」と言つたので、それまでのファイトにつられて足が走り出してしまつた。準備を整えてから五名そろつてスタート、しばらくして佐藤が追いついて来て六名になつた。きれいに並んで足もそろい、いつも通りの調子で声をかけながら、自然に好調となつてきて前半を過ぎた。皆が小屋はまだかなと足取りが軽くなってきた頃、林吉が「あの山がせまつて来たからもうすぐそこだ。あの山を周った向う

剛だ」等と言つたので、そらもうすぐだと皆もファイトを燃やしてその山を周つた。残念ノ勘違いで疲れが出て来て足がガク／＼になつてしまつた。それでも皆声を掛け合つて大分走つたんだが、後もうちよつとと云う所で佐藤君の足が重い登山靴の為に走れなくなつてしまい、ゆっくり歩きながら歌を歌つて小屋まで帰つて來た。着いてから小屋の下と玄関の前で例のフレーフレー栄光サッ／＼と手々チヤキ々をやつて無事脚到着。途中道が別れていた所で、もしこの道を行つてへんな所へ行つちゃつたら野宿しよう、と言つていたがどうやらたどり着いた。着いてみるとそれ程ふたばつていなかつた

。天狗はふたばかり過ぎて飯が食え

。やつぱり年なんだな。
　なかつたそだ。イモ健は足が痛
　くてシヤリにもまじでいると云う

サッカーボルダーバロー、今日走

(元田) 六一山へも田舎者六一

一三峰コース

丹沢山までは柳のごとく、四時
間ばかりかがってたどりつく。僕
は三峰コースが初めてなので、興
味が深かった。そしてそのとおり
ブナの原生林におおわれ、その地
面には小さな草とかコケ類がはえ

ていて、いかにも妖精が出て来て踊りそうな林であった。そこで、いつまでも寝ていたいと思つたが

時間及び協同生活が許さないのであらめ、ただどの原生林を鑑賞するのみであった。

登りはさほど強くはないが、下り

はもの凄く急で、その上天狗さん

「オースト

「一人で来たの？」

卷之二

卷之三

二ノ丸のサムライ

こんなにまで暮一のやうに不穏

奴が二人殺されたんだ。小屋に

アラブ半島に部属四人が汗

して いた。他の着は三川峰の出か

けたとか、水を浴びて一休み。

の水流をながめながら、何度も

う。いつきて、もいなあ」と思

突然、小屋の下で開き

その所の工リレが領えて來る。

卷之二

廿六日下六多日と一加加西毛羽て

るん
しや
ねえか
と
思われる声で

懸命にとなつてゐる

彼らは山道をマラソンへすつと

て来たらいい。まあ、山道をバリ

バリ走る事が良い事が悪い事がは

別にして、彼等のファイトをがお

う。団結をかおう。これが下界へ下つてグランードに立つ時にそのまゝ表われるのなら。

夜はナポレオンとかいうやつが大流行。僕もちよゝと実力を発揮

してゆう／＼トッピをさうつた。とにかく、高丘の夏休みという貴重な時間をさいて来ただけの事はあつた。来年はもっと軽い気持で、こんなにあわただしいスケジュールでなく来られる様に頑張ろうと思う。

九期生の諸君ありがとうございました。

山小屋よ、来年も又来るよ！

キヤンニア田日

朝から小雨で全員ナンデン。ナ

ボレオング嫌いな人は午前中の時間もてあましたようだつた。あちこちに六、七人すつ丸くなり、ナポレオンに没頭していた。午後からは一班の魔球部員は五人ばかり

り食事当番になり、野菜を切つたり火を燃したり、残りは小屋の下の広場でマキワリ。食当は織戸せんにホットケーキをもらつたり、ピーナッツを食つたり非常に樂しかつた。

私は山小屋へ来て山へ登つたのは一度だけだつたが、ナンデンしている事が非常に楽しいと思う。

どこえも行かずに山へ向しに來たんだ、と云う人がいるかもしだいが、私は山小屋にいるだけで満足である。オーに涼しいし、冷い水が豊富である。水につかる事もできる。夜はグッスリ眠れる。又

食事の用意をするのも結構楽しい。だから、これからも小屋へ来ようと思つていい。ちょうどトシマナポレオンに没頭していた。午後氏の様に。

(石原)

いくらかバテ氣味の四日目、朝からの小雨で沈漫。大泉内山等何しに山へ来たんだとボヤク。三日連続チンテンとは御苦勞なこつた。ところで、午前中のナポレオンの成績は中山が一位だった。根が悪いのはこういうのがうまいらし

さて、キヤンニアファイアの為に田田畠山田・大泉の面々サワグ事しきり。適当に味見をしていると、青木さんに「め！」とやられた。とも、

かく円満に帰る事がホットケーキの秘訣だそうだ。青木さんがニン

マリする。

8月5日(火)晴

アミカタ一番作るのは滝辺が運ぶ

可しきスナリ木

トケーキだから。

「主張幾走記」

フアイアは太前の下手な歌で始
まつた。他の野郎は全然何もやら
ない。庵達十二名そろって歌つた
はよいが、どうもうますみて。何
しろオクターブが全然違うのがか
ら・ビアコソベニーと南国土佐
を後にして、トニンを歌う。後全
然景気がつかねえので、金踊りを
やつた。トックリになつて。

朝四時半頃起きた。外をみるとまさに天気は絶好である。朝飯は昨日の残りのカレーライスを食べ、あまり食えなかつた。身仕度を整えていると、高之後もうるさいのをもつてなる其が来て「大前遅難してくれんなんよ」普段ギヤアギヤア隣ぐ奴でもやはり別れの時はしんみりするのかな。全く不遇

ふと「た青木先生。まだ誰も起きていないと思つたら、丹沢ホームの中村先生が僕達を送つてくれた。朝のすがりしい空気を吸つて元気一杯、一天のつもりもない空からはぐろぐろお天頭様が顔を出しそうだ。僕の前行く佐藤が急に止まつた。あのどうもうでライオンのような佐藤が急に止つたの

天狗彌リでファイバーの火も消え

明日六名程主脈縱走をやる。
ビル事をいのって就寝する。

誰がさんはホイッスルを鳴らして
いた。(田里)

そんな事はさておき、いよいよ我

そばの草むらに入つて、しまた。例の通り長尾尾根をだらだらと登る。しかし、視界がさくので疲れなど全然感じない。三ツ峰

々六人（飯田、田代、大前、菅沢、中山、佐藤）は小屋の前に勢揃いして、山へ行く時の歌を歌い出発した。リ

な頂を三つ並べてある。途中で毒

取つたのだが皆駄目。三十重取り

松洞丸の方の山脈はもの凄い。

木先生が狐らしき物を見つける。しばらく行くと、又佐藤がガマに

位だったそうだ。実に残念だった。

山小屋より五時間、遂に蛭ヶ岳着く。こゝで少し早いが昼食。

驚かされた。佐藤の顔は余程が
に好かれたらしい。長尾尾根から
はいつも見えない新大日も、是
朝であるためはっきりと見える。
表尾根に出たら夏には珍らしく富
士山が見えた。しかし、両側にカメ
がはえて、いるので頂上しが見えな
い。そこで菅沢が「オレ、見え
えど」。木の又大日の原っぱら
き所で、始めて全員富士のすそ野
から頂上までを眺めた。

龍が馬場も一段ときれいに見える。丹波山からまだ行った事のない道、つるべ落しの急降を下った。本当に素晴らしい景色だ。不動の峯への道が、草むら、花の中を一すじ茶色をしている。全く体が大自然の中へ溶かされるみたいだ。云わば、大自然がミキサーで、僕達はりこすといふ所か。実に気持ちよく登れる。疲れは全く感じない。時々きれいな蝶が僕達の回りを飛び

十五分間休んで出発。蛭ヶ岳から眺望に名残りを惜しみながら廻小屋へと下る。渠な道である。ところが、道標に青根までの時間が書いてあり、青木さんが急げば予定のバスより一台早いのに乗れると思つたので、もう烈にとばす。せつ角姫次の原へ遊ぼうと思つたのに、寒に残念である。青木先生は下りはとばすが登りとなるとびと運い。姫次の原では、あさぎま

塔ヶ岳で一休み。始めてお茶を飲む。青木先生がとくいになつた。あれは南アルプスの△山。山凹山凸山と説明する。海と箱根だけは雲がかかるでいたが後は全部見渡せる。ここで佐藤が写真を下さい今

。その蝶が花にたわむれていると
ころなんて、全く下界では見られ
ないものである。青木先生が、玄
倉川は丹沢の黒部と呼ばれている
と説明した。なるほど玄倉川がつ
き上げている沢は全部急峻である

たら、が二十四位むらがって飛んで
いて、実にきれいだった。やつと
青根への分歧点に着いた。人家を
見える。しかしこの下りの邊か
た事、先日の三ツ峰からの下りの
比ではない。もう足がガクガクだ

ころではながった。その上りくら下つても人家は近くにならず、しまいには忍術が使えて鳥になつて飛べたらなあ、なんていう邪念を起してしまつた。しかしあと太川道に出たところで、飯鍋の人がトライクが今しがた行つたと言つて近道を教えてくれたので、トライクに乗る事が出来た。その時、昔の嬉しさうな顔つたながつた。やつと一息ついて、バスの停留所で四十分钟待つ。冷たい水とジュースを腹一杯飲んだ。しかし、一返町に下つたら青木先生のすかす

四十五分でやつてのけたのである。や、ヤマーベー一生懸命うるさい。二階に居る蹴球部員残りの我らが六人は、ヤビツの休憩所で十ホレサンをし、又泰野の氷屋で過ぎの為木イッスル?(におひつき)もしたそうである。まさに気ががいたである。ところが、あまりにナボレオンを尊敬した為、バスに間にあわなくなりそうになり、氷が満足に食えせず山田は号泣残してしまい、林吉は困く丸めて外で食つたそだ。彼等は儀達の残していつたゞますますかり掃除し大上、二な終焉まで受け上は、

(大前)

面倒クサくなつて洗わずに食当をした奴がいた。その名は言わずと知れた!……。朝飯は味噌の色をした汁と納豆。大前がいたら「オレンヂの納豆はも」とウメーツ」と言うところなのに残念だ。帰り仕度開始ノスケーポコリだ。印度が出て掛けた。その物音に驚かされて外の野郎も目を覚まし、お話をモケンがやつて来て「南国土佐を教える」と申し込むので、サツクコーセする。天狗、菊野サン、ガホガホ、ベキベキベキ、ガキガキであつた。遂に主張縦走を七時頃

「サッカー部を又見直したよ。実

にいい奴だな」イモケンイワク「

だけど少し弱がないなあ」菊野さ

ん「アイトがあつて良いよ。実

に柔しいな」トンヤ氏「――」

シナビタキウカリが出て来た。オ

リトさん曰く「も」と早く出せよ。

「What does one say?」

今からじやもうます、よ。」

「かし今からでも遅くない。後か

ら来る奴に食わせる。」

部屋もがたづきキレイになつた。

家へ帰れるれしだに、スマイル

トも新たになる。前夜の天狗の言

葉「山で経験した事を、人生の工

ピソードに終らせるな」を忘れず

に。又来年も、そして再来年も、

毎年毎年我等サッカー部の仲間で

この愛する山小屋を訪れようでは

ないか。

フレーフレー栄光

山小屋バンザイ

天狗バンザイ

トウエルババンザイ

○○○山小屋生活より○○○○○

「科学的に証……」

ゴボツイ兒チヤンが玉ネギを

切りながらボロボロ涙をこぼ

している時、我がキヤブテン

曰く――

「玉ねぎを切つたのを口にく

われるんだよ。すると涙が出

ないんだぜ。何しろ科学的に

証明された迷信だから」

「歌うは、土佐のヨサコイ節

――

「ツトメハタシココロナヤカ」

キヤンアファイアード

スラットならんだ蹴球部員

西部劇の死者に対する追悼よ

ろしく、妻カラ帽子を胸に、

「歌うは、土佐のヨサコイ節

ヨ――

ツトメハタシココロナヤカ！」

ツトメハタシココロサヤカ！」

ツトメハタシココロサヤカ！」

ツトメハタシココロサヤカ！」

ツトメハタシココロサヤカ！」

ツトメハタシココロサヤカ！」

としました。

キジを打つたK先生がニヤツ

(林)

never far get our fight in the mountain

編集後記

△ DASH もこの第六号をもって創刊以来三年たつたわけだが少しでも進歩が見られるのは嬉しい事だ。原稿の集りがかなり良くなつたのは一つの進歩と見てよいだろう。しかし集りがよいといつても不満がないと云う訳ではない。少しだけ集らなかつた事だ

マ中学生の諸君は『何だこんなもの』位に考へておられるかも知れないが一度、部誌ダッシュの持つ意義を考えてもらいたい。このままで S-H を更に盛り上げて行く事が出来るかどうか疑問だ。それどころか現状維持も遙しいのではないか

と思われて仕方がない。もつと奮起してもらいたい。そしてますます進展させてもらいたいものだ。

△ 今号は七十五ページと創刊以来最も厚いものとなつたが、今迄の「部の雑誌」に加えて「部員の雑誌」という面に特に力を入れて見た。DASH をどういう方向に發展させていくかは今後の大きな問題だ。

△ 次号より DASH をより良い物としていく為、批評感想の欄を設けることにしたから、編集者の方にどしどし寄せて下さる事を御願いする。

|| DASH 第六号 ||

昭和三十四年九月二十五日印刷
昭和三十四年十月一日発行

発行所

崇光学園蹴球部

編集責任者 内山正樹

印刷所

光 有 社

横浜市金沢区泥亀町一

TEL (7) 九七四三番

編集長 内山正樹
編集委員 中前峻